14.21
3231

福井縣工業試驗場一覽

（大正八年一月）

始

14.21
3234

福井縣工業試驗場一覽

（大正八年一月）

目次

(一) 設立ノ由來
(二) 沿革ノ梗概
(三) 規則
(四) 規模及設備
(五) 業務成績
　土地、建物、機械器具
(六) 場員
(七) 經費及收入

大正
8 3.29
内交

14.2/1-323

福井縣工業試驗場一覽

本場ハ現在ニ於ケル府縣立織染關係試驗場講習所十四個所中最古キ歷史ヲ有スルモノニシテ其創立ハ實ニ明治三十五年即チ十數年前ニ屬シ時正ニ本邦產業界ノ大勢ハ織物工業ノ發展カ刻下急務ノ一ナリト絕叫セラレシ狀況ナリキ農商務省カ斯業ノ發達ニ資スヘク樞要機業地ト認メタル京都、群馬、栃木、山形、福井、富山ノ六府縣ノ當業關係者ニ對シ適切ナル機械貸與ノ擧アリシニ徵スルモ其一斑ヲ窺フコトヲ得ヘシ然リ而シテ本縣當時ニ於ケル織物工業界ノ狀勢ハ如何既ニ明治二十年ニ瓢々ノ聲ヲ擧ケタル輸出羽二重ハ年々歲々產額增進ノ機運ニ向ヒ同三十二年以來年額一躍シテ壹千餘圓ニ達シ嶄然頭角ヲ表ハシ縣下重要物產ノ位置ヲ占メタリ然レ𪜈其製造組織ノ如キ專ラ手工的ニシテ之ヲ機械的ニ漸進セシムルノ要アル等尙講究ノ餘地少ナカラス之カ改善ヲ企圖スルハ焦眉ノ急ニシテ本縣工業界進步ノ一要事タリシヲ以テ其目的ヲ貫徹スル一手段トシテ遂ニ本場ノ設立ヲ見ルニ至リシモノトス

爾來本縣官民ノ共同一致及世ノ進運ハ織物年產額ヲシテ一億圓ニ增大セシメ其工場組織ハ機械的ニ進化シ精練整理ノ工程ニ一新方面ヲ開キタル等面目ヲ改メタル點少ナカラサルハ慶賀措ク能ハサルナリ若シ夫レ本場業務成績其ノ變遷等ニ關シテハ左ニ項ヲ分チ詳說スル所アラントス

(一) 設立ノ由來

(二) 沿革ノ梗概

明治三十四年十二月本縣通常縣會ニ於テ本場設立ノ件ヲ決議シ翌三十五年四月農商務令ヲ以テ設立ノ件認可セラル◎仝月十時元及森田儀一郎福井縣工業試驗場設立委員ヲ囑託セラル◎仝年五月縣令第三十六號ヲ以テ

福井縣工業試驗場運轉資金規程ヲ定メラル◎仝年七月廳訓第一〇四號ヲ以テ福井縣工業試驗場職員俸給旅費支給規則ヲ定メラル◎仝年仝月本縣技師十時元場長ニ任セラル◎仝年八月敷地トシテ福井市ヨリ三千坪及本縣絹織物同業組合ヨリ三十五年度以降三ケ年間臨時部建築費中ヘ其十分ノ三經常部費中ヘ其十分ノ二ノ寄附ヲ得テ仝年十月建築坪數參百貳拾坪余ノ工ヲ起セリ◎仝月福井縣訓令第百四十九號ヲ以テ特別會計規則ヲ定メラル◎三十六年二月農商務省ヨリ滿五ケ年ヲ期シ見積價格金貳萬圓ニ相當スル染色機械ヲ貸與セラル◎仝年四月職制及場長職務規程ヲ定メラル◎仝年五月建築竣工シ仝年十二月告示第貳百貳拾參號ヲ以テ福井縣工業試驗場ヲ福井市簸川中町ニ設置シ其事業ヲ開始セラル◎仝月福井縣指令內四甲第參千六拾四號ヲ以テ職工規程ヲ認許セラル◎仝三十七年度ニ於テ土藏、仝庇及本館附屬家ヲ新築セリ◎仝三十八年度ニ於テ物置及喞筒小屋ヲ新築セリ◎仝三十九年八月場長十時元農商務省技師ニ任セラレ仝月技師林精一場長ヲ命セラル◎仝四十二年九月東宮殿下行啓在セラル◎仝四十四年四月整理工場及渡リ廊下ヲ新築シ仝年九月場長林精一休職ヲ命セラル◎仝年十一月本縣技師中里新太郎場長ヲ命セラル◎大正元年九月場長中里新太郎休職ヲ命セラル◎仝年十二月技師佐田友雄場長ヲ命セラル◎大正三年八月染色工場增築◎大正四年十月乾燥室增築◎大正五年二月場長佐田友雄本職ヲ免セラル◎仝月技師伊勢鉾三場長事務取扱ヲ命セラル◎仝年四月技師岩下龍太郎場長ヲ命セラル◎仝月技師伊勢鉾三場長事務取扱ヲ免セラル◎大正六年十一月三日本場創立十五週年記念式ヲ擧行シ◎仝年十月二十九日ヨリ一週間記念織物展覽會ヲ開キ仝時ニ場內ヲ開放シテ衆庶縱覽ニ供スノトス

(三) 規則

一、福井縣工業試驗場業務規程 (明治四十年十一月訓令第五十二號)

第一條　本場ハ機織及染色業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ之カ製作技術ニ關スル事項ニ付試驗ヲ行フモノトス

第二條　本場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

一、巡回講話及實地指導

二、見本品ノ配付

三、原料及製品等ノ分析試驗鑑定

四、機械器具ノ檢定

五、製作技術ニ關スル質問應答

第三條　本場ハ織染業ニ關スル職工ヲ養成スル爲研究生ヲ入場セシメ其技術ヲ修得セシムルコトヲ得

二、福井縣工業試驗場職制 (明治三十六年四月十五日福井縣訓令第二十號)

第一條　工業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長　一人

技師　二人　但シ內一人ハ場長ヲ兼ヌルモノトス

技手　若干名

書記　若干名

第二條　場長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第三條　場長ハ部下ノ職員ヲ監督シ其功過ヲ知事ニ具狀スルコトヲ得

第四條　場長事故アルトキハ技師其事務ヲ代理ス

第五條　技師ハ上司ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル

第六條　技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス

第七條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

三、福井縣工業試驗場職務規程

（明治三十六年四月十四日 縣訓第七號）

第一條　左ニ掲クル事項ハ知事ノ決裁ヲ經テ場長之ヲ施行ス

一、職員縣外出張ニ關スル事

二、處務規程其他細則ノ設定改廢ニ關スル事

第二條　左ニ掲タル事項ハ場長之ヲ專行ス

一、職工及小使雇用解雇ニ關スル事

二、職工及小使賞與ニ關スル事

三、職員縣內出張ニ關スル事

四、當業者ノ委託ヲ受ケ加工品ノ賃事業ニ關スル事

第三條　前二條ニ掲ケタルモノヽ外ハ其事項ノ輕重ニ依リ類推處分スヘシ

四、福井縣工業試驗場職員俸給旅費支給規則

（明治三十五年七月十日 縣訓第一〇四號）

第一條　場長及技師ノ俸給ハ年俸六百圓以上千五百圓以下トス

第二條　技手ノ俸給ハ月俸拾五圓以上五拾圓以下書記ノ俸給ハ月俸拾貳圓以上四拾圓以下トス

第三條　俸給支給ノ方法ハ場長技師ハ高等官官等俸給令技手及書記ハ判任官俸給令ノ例ニ依ル但支給期日ハ毎月二十一日トシ休日ニ當ルトキハ順次繰下ク

第四條　旅費支給ノ方法ハ內國旅費規則ノ例ニ依リ其支給額ハ場長及技師ハ仝規則第三等旅費額技手及書記ハ第四等旅費額ヲ給ス

五、福井縣工業試驗場運轉資金規程

（本規程ハ明治三十五年本縣令第三十六號ヲ以テ制定セラレ大正三年本縣令第八號ヲ以テ本規程第一條ヲ改正セラル）

第一條　運轉資金ハ原料ノ購入其他事業ノ資金ニ充ツルモノトス

第二條　製造品加工品ノ賣却代金其他施業上生スル雜益雜收ハ之ヲ運轉資金ニ收入スルモノトス

第三條　運轉資金ハ確實ナル擔保品ヲ徵シ銀行等ヘ預入レ利殖スルモノトス

第四條　運轉資金ノ收支ハ特別會計トス

附　則

第五條　本規程ハ明治三十五年度ヨリ施行ス

六、福井縣工業試驗場運轉資金特別會計規則

（本則ハ明治三十五年十月三十日福井縣訓令第百四十九號ヲ以テ制定セラレ明治三十七年十月三十一日訓令第百四十二號ヲ以テ本則第三條及第六條ヲ改正セラレ第十二條書式目錄甲ハ第七號作業請負報告書ヲ追加セラル）

第一條　運轉資金ノ收支管理ハ縣廳ニ於テ之ヲ掌ル

第二條　縣廳ニ於テ縣費ヨリ受入金又ハ資金ノ利子ヲ收入シタル片ハ之ヲ場長ニ通告スルモノトス場長ハ前項ノ通告ヲ得テ記帳ノ手續ヲナスヘシ

第三條　施業上ヨリ生スル製造品加工品及不用品ハ場長ニ於テ豫定價格ヲ定メ競爭入札若シクハ指名入札ニ付シ賣却スヘシ

但一個若シクハ一廉ノ豫定價格參百圓以上ナルトキハ知事ノ認可ヲ經ヘシ

前項入札ニ弊害アルト認メタルトキハ知事ノ許可ヲ經テ隨意契約ニ依ルコトヲ得

作業品製造ノ豫約ヲ申出テタルモノアルトキ又ハ原料若シクハ素品ヲ提供シ製造又ハ加工ヲ希望スルモノアルトキハ場長ハ之ガ請負ヲ爲スコトヲ得其請負期間三ケ月以上ニ渉ルトキ若クハ製造品ノ豫約代價一廉參百圓以上又ハ製造若シクハ加工ノ賃額一廉拾圓以上ナルトキハ契約締結前其條件ヲ具シ知事ノ認可ヲ經ヘシ

前項ノ請負ヲ爲スニ際シ契約保証金ヲ徵スルヲ必要ト認メタルトキハ之ヲ徵スヘシ

場長ハ毎月末日作業請負報告書ヲ作リ翌月五日限リ知事ヘ提出スヘシ

第四條　前條賣却代金製造料若シクハ加工料等ヲ收入シタルトキハ直ニ記帳ノ手續ヲ爲シ其現金ハ即日若シクハ翌日マテニ縣金庫ニ仮預ヲ爲シ該預リ証書ニ納付書及賣却其他ニ關スル證憑書類ヲ添付シ知事ニ納付スヘシ

第五條　場長ニ於テ一個若クハ一廉ノ豫定價格金六百圓以上ノ原料品ヲ購入セントスルトキハ品目數量代價幷ニ事由ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ經ヘシ

場長ニ於テ原料品ヲ購入シタルトキハ物品納入ノ後正當債主ノ代金請求書ヲ徵シ記帳ノ上購入ニ係ル證憑書類ヲ添付シ支出方ヲ知事ニ請求スヘシ

第六條　場長ハ製造及加工ノ標準價格ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ爾後變更セントスルトキ亦同シ

第七條　歳入ノ過納還附若クハ歳出ノ定價額戻入ヲ要スルトキハ亦前數條ノ例ニ準ス

第八條　試驗場ニ於テハ左ノ帳簿ヲ設ケ其受拂ヲ登記スヘシ

一、運轉資金日計簿

一、同　歳入簿

一、同歳出豫算差引簿

第九條　場長ハ毎月末日帳簿ノ結果ニ依リ運轉資金現計書ヲ作リ翌月五日マテニ知事ニ提出スヘシ

第十條　場長ハ運轉資金ノ決算書ヲ作リ年度後一ケ月以内ニ知事ニ提出スヘシ

第十一條　本則ニ規定シタルモノヽ外ハ總テ各廨會計細則ニ依ルヘシ

第十二條　本則ニ掲クル總テノ書式及記入ノ方法ハ別冊書式ニ依ルヘシ

書式目錄

運轉資金日計簿　第一號

同　歳入簿　第二號

同歳出豫算差引簿　第三號

同　現計書　第四號

納付書　第五號

請求書　第六號

作業請負報告書　第七號

七、福井縣工業試驗場職工規程

本規程ハ明治三十六年十二月二十六日福井縣指令内四甲第三〇六四號ニ依リ知事ノ認可ヲ經テ制定シ明治三十八年四月二十七日福井縣指令内四甲第五六五號ノ經伺ニ依リ本規程第四條、第拾條、第十六條、第十七條ヲ改正シ第二十六條ヲ削除シ更ニ大正六年五月二十一日勤甲第二五〇號ヲ以テ左ノ通リ改正

第一條　職工ハ左ノ事項ニ該當スルコトヲ要ス

一、年齡十四歳以上タルコト

一、身体健全品行方正ニシテ業務ニ忠實ナルコト

第二條　職工ハ本場ニ於テ適當ト認メタル福井市在住丁年以上ノ男子ヲ保證人トシテ其ノ連署ヲ以テ別記樣式ノ誓約書ヲ差出スヘク保證人變更ノ場合ニハ其旨屆出ツヘシ

第三條　職工ノ等級及日給額左ノ如シ

一　等　金壹圓以上金壹圓五拾錢迄

二　等　金五拾錢以上金壹圓未滿

三　等　金拾錢以上金五拾錢未滿

第四條　本場ニ於テハ十五歳未滿ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若クハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ掃除注油、檢査若クハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若クハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取付ケ若クハ取外シヲ爲サシメ其他危險ナル業務ニ就カシメサルモノトス

第五條　勤務時間ハ午前七時ヨリ午后五時ニ至ル十時間トシ業務ノ都合ニ依リ臨時伸縮スルコトアルヘシ但シ勤務時間内ノ休憩時間ハ一時間トス

前項ノ規定ニ依リ勤務時間ヲ延長シタル場合ニ於テハ一時間毎ニ日給額ノ十分ノ二ヲ支給ス

第六條　定期休日左ノ如シ

大祭祝日　日曜日

年始　一月一日ヨリ同月三日迄

孟蘭盆會　七月十六日

本場紀念日　四月二十二日

年末　十二月二十九日ヨリ同月三十一日迄

第七條　職工ノ給料ハ日給トシ勤務日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ請負仕事ヲ命シ出來高ニ依リ賃金ヲ支給スルコトアルヘシ

日曜日ヲ除キタル休日及父母、夫、妻、子ノ忌引三日間ハ勤務日數ニ計上ス

第八條　勤務時間内ハ漫リニ早退ヲ許サス若シ止ムヲ得サル事情アルトキハ係員ニ申出テ其許可ヲ受クヘシ

前項早退又ハ遲刻ノ場合ニ於テハ其勤務時間數ニ應シ日給額ヲ算定シテ支給スルモノトス但シ一時間ニ充タサル端數ハ之ヲ切棄ツ

第九條　病氣其ノ他ノ事故ニ依リ遲刻又ハ缺勤スルトキハ其ノ旨豫メ屆出ツヘシ若シ病氣缺勤二週間以上ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ譴責又ハ解雇處分ニ附ス

一、無屆ニテ遲刻、早退又ハ缺勤シタル者

二、所定ノ掃除ヲ怠リタル者

三、品行方正ナラザル者

四、業務ニ不忠實ナル者

五、本場規則又ハ命令ニ違背シタル者

自已ノ過失又ハ不注意ノ爲メ原料製品、機械、器具等ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ相當ノ過怠金ヲ徵收ス

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ賞與金ヲ給與ス

一、品行方正ニシテ格別業務ニ勉勵シタル者

二、非常ノ際特ニ盡力シタル者

三、業務上顯著ナル便益品ヲ發明シタル者

四、勤續年數三ケ年以上ニシテ平素ノ成績佳良ナル者

第十二條　職工ニシテ解雇ヲ出願セントスル場合ニハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ願書ヲ差出スヘシ

第十三條　職工ハ其ノ貯蓄心ヲ涵養シ一面ニ於テ各自不時ノ用途ニ充ツル爲別ニ定ムル職工貯蓄金規則ニ依リ貯金ヲ爲スヘシ

第十四條　職工ハ本規程ノ外總テ本場ノ規則命令ヲ遵守スヘシ

第十五條　職工業務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ明治四十年五月縣令第二十九號ニ依リ扶助ス

第十六條　相當ノ學力技能ヲ有スル者ニシテ實技ヲ修得セムト欲スルトキハ研究生トシテ入場セシムルコトアルヘシ

第十七條　研究生ニハ日給ヲ給セス但シ相當ノ報酬ヲ爲スコトアルヘシ

研究生ノ勤務ニ關シテハ總テ本規程ヲ準用ス

誓約書樣式

誓　約　書

私事貴場ニ雇傭相成候ニ就テハ猥リニ解傭申出間敷且ツ御施行ノ諸規則及御命令堅ク相守可申候誓約書仍テ如件

本籍　何府縣何郡市何町村何番地族籍何男女
現住　何府縣何郡市何町村何番地（戸主又ハ戸主トノ關係）
年月日　本人　何某　印
生年月日

本人貴場在勤中萬一不都合ノ義有之候ハヽ拙者引受聊カ御迷惑相掛ケ申間敷候

福井市何町何番地族籍（本人トノ關係）
保證人　何某　印
生年月日

福井縣工業試試場長何某殿

職工中成績佳良ナルモノニ助手ノ名義ヲ付シ月給支拂制度採用ノ件知事ヘ伺

本場業務擴張セラレ精練染色、仕上、分折、機械等各部ノ作業全ク其性質ヲ異ニシ加フルニ近頃當業者ノ質疑鑑定等ノ爲メ工務課ニ來ルモノ甚タシク增加ノ爲メニ一人ノ技師一人ノ技手ノミニテハ場内ノ監督並ニ整理ニ行屆キ難キ場合モ相生シ候ニ付爾今職工中ニ於テ相當事務上ノ才幹ヲ有シ成績佳良ナルモノヲ擧ケテ其一部ヲ助ケシメ度就テハ五名以内ノ數ヲ限リ其待遇上ヨリ此等ニ對シ特ニ月給支拂ヲナシ且場長限リニ於テ助手名義ヲ相用ヒ度候條御認可相成度此段相伺候也

明治四十四年二月三日

知事宛

福井縣工業試驗場

福井縣指令内四甲第二四四號

明治四十四年二月三日付工丙第五號伺月給支給ノ件聞屆ク

福井縣知事　中村純九郎

明治四十四年二月九日

八、加工賃規程

本場ニ於テ當業者ヨリ加工依賴ヲ受ケタルハ明治三十年度ニシテ重ニ輸出羽二重ノ下拵ニ止マリ同年福井縣指令内四甲第一四七四號ヲ以テ生糸繰取、糊付繰返、再繰返、綜絖織ノ標準賃格ノ制定ヲ始トシ兩來時勢ノ進運ニ伴ヒ加工程度ノ發展ニ基キ事業ノ擴張幷ニ原料價格ノ高騰等ニ依リ屢々改正及追加ヲ要シ又現今ニ至リテハ自然消滅ニ歸シタルモノアリ即チ三十七年十二月内四甲第一五九〇號生糸繰返ヲ三十八年第三甲六一九號綜絖織ヲ何レモ改正シ四十年九月内四甲第四四六號羽二重、絹**モスリン**、織賃ヲ四十三年十二月内四甲第四四九六號撚糸加工賃ヲ四十五年二月内四甲第五六六九號染色加工賃ヲ制定シ同年五月内四甲第二二七二號染色、練物漂白加工賃ヲ改正シ大正元年九月内四甲第三五八五號瓦斯燒加工賃ヲ制定シ同二年七月内四甲第二八二三號撚糸、染物、練物、漂白、**シルケット**、整理加工賃ヲ改正シ同三年十一月内四甲第七八六五號絹糸建染加工賃ヲ制定シ同四年五月勸甲第一〇八〇號絹糸精練ヲ同五年六月勸甲第二九二三號染物、練物、漂白、**シルケット**賃金ヲ何レモ改正同六年十二月勸甲第五三五九號ヲ以テ刺繍加工賃制定シ以テ現今ニ至レリ其内譯左ノ如シ

撚糸加工賃金表

原料	撚糸ノ種類	數量	賃金
生糸	片撚	百匁ニ付	貳拾錢乃至四拾五錢
同	諸撚	同	四拾錢乃至壹圓
同	壁撚	同	五拾錢乃至壹圓貳拾錢
同	シフヲン撚	同	六拾錢乃至壹圓貳拾錢
同	縮緬撚	同	九拾錢乃至壹圓五拾錢
同	編糸撚	同	七拾錢乃至壹圓貳拾錢
綿糸	壁撚	同	貳拾錢乃至八拾錢
同	縮緬撚	同	參拾錢乃至壹圓

一、特種ノ原料若クハ特種ノ撚方ハ本表ニ準シ其都度場長之ヲ定ム

一、同一人ヨリ一時ニ多量ノ依頼アルトキハ特ニ協定シテ割引スルコトアルヘシ

染物、練物、漂白、シルケット賃金表

原料	加工種類	數量	賃金
綿糸	精練漂白	一玉（一貫二百匁）	貳拾五錢乃至六拾貳錢五厘
同	シルケット	同	壹圓貳拾五錢乃至貳圓五拾錢
同	普通染色	同	五拾錢乃至壹圓七拾五錢
同	硫化染	同	壹圓貳拾五錢乃至貳圓貳拾五錢
同	アリザリン染及建染	同	五圓乃至參拾圓
絹糸	精練	百匁	拾貳錢五厘乃至貳拾五錢
同	漂白	同	拾貳錢五厘乃至五拾錢
同	普通染色	同	貳拾五錢乃至七拾五錢
同	增容染	同	五拾錢乃至壹圓
同	アリザリン染	同	五拾錢乃至壹圓
同	建染（黑）	同	參圓七拾五錢以内
同	同（濃色）	同	壹圓七拾五錢
同	同（中色）	同	壹圓貳拾五錢
同	同（淡色）	同	七拾五錢

一、織布ノ精練及染色ハ本表ノ賃金乃至其二割増トス

一、植物繊維類ハ綿糸ニ動物繊維類ハ絹糸ニ準ス

一、交織物ハ其部度塲長之ヲ定ム
一、括リ絣染ハ括糸其秤量シ本表ニ準ス板締絣ハ絣ノ種類ニ依リ其都度塲長之ヲ定ム
一、綿糸ニ在リテハ量目百匁迄ハ百匁ノ賃金トス絹糸ニ在リテハ五十匁進ハ五十匁ノ賃金トス
一、同一人ヨリ一時ニ多量ノ依頼アルトキハ特ニ協定シテ割引スルコトアルヘシ

整理賃金表

（大正二年七月十六日福井縣指令内四甲第二八二三號）

種別	數量	賃金
帶地類	一本	貳錢乃至拾貳錢
肩裏地	一枚	貳錢乃至八錢
繻子、綾絹、琥珀類	一碼	壹錢乃至參錢
繻珍、紋綾、八ッ橋、綸子類	一碼	壹錢乃至參錢
着尺地類	一反	四錢乃至拾五錢
婦人袴地	一碼	五厘乃至貳錢
襟地	一掛	五厘乃至壹錢
リボン類	十碼	壹錢乃至八錢
座布團地類	一表裏共枚	壹錢乃至參錢

綾地類	一反	五厘乃至拾錢
羽二重類	一碼	五厘乃至參錢
窓掛類	一碼	壹錢乃至拾貳錢
都錦綿織	二丈	四錢乃至拾六錢
ハンカチーフ	一ダース	參錢乃至貳拾錢
傘地類	二十二ヤール半（一枚）	拾錢乃至拾五錢
毛燒	五碼	壹錢五厘乃至七錢五厘
湯慰斗	五碼	貳錢五厘乃至七錢五厘
巾出シ	五碼	貳錢五厘乃至五錢
ロール掛	五碼	壹錢乃至七錢五厘

一、毛燒、湯慰斗、巾出シ、「ロール」掛ハ數量五碼迄ハ五碼ノ賃金トス
一、本表ニ該當セサル加工品ハ其都度塲長之ヲ定ム
一、同一人ヨリ一時ニ多量ノ依頼アルトキハ特ニ協定シテ割引スルコトアルベシ

刺繍加工賃金表

針壹本ニ付	壹厘乃至五厘

(四)規模及設備

一、工地建物

本場ノ敷地ハ福井市籔川中町及吉田郡圓山西村松本地方ニ跨リ面積一千七百坪ヲ有シ工業學校ト其構ヲ一ニス建物ハ悉ク木造ニシテ大部分ハ明治三十五年十月工ヲ起シ翌年五月ニ至リ竣工シタルモノナリ重ナル建物ハ本館(三十五坪)織物工場(二百坪)整理工場(六十五坪)染色工場(二十坪)土藏(二十坪)機關室(二十三坪)等ナリ同三十七年度ニ本館附屬家(十二坪)土藏(二階建二十坪)同疵(五坪)玄關(三坪)ヲ同三十八年度ニ物置(十二坪)及喞筒小屋(二坪)ヲ同四十四年度ニ整理工場(六十五坪)及渡廊下(七坪)ヲ大正三年度ニ染色工場(二十坪)ヲ同四年度ニ乾燥室(十八坪)ヲ增築シ大正五年度ニ本館及工作室職工控室職員便所職工便所並ニ各廊下ヲ改築セリ其ノ內譯左ノ如シ

一、敷地總坪數　一千七百坪

二、建物總坪數　四百六十二坪二合

內譯

(1) 本館　三十五坪　大正五年度改築

塲長室兼應接室　事務室　宿直室　小使室　自明治三十五年度至明治三十六年度　建築

(2) 織物工場　一百坪

工務室　十六坪七合

刺繍室　十三坪五合ヲ含ム

(3) 機關室　二十三坪　自明治三十五年度至明治三十六年度　建築

(4) 土藏　二十坪　明治三十七年度建築

(5) 整理工場　六十五坪　明治四十四年度同

(6) 染色工場　二十坪　大正四年度　同

(7) 乾燥室　十八坪　同　四年度　同

(8) 土藏庇　五坪　明治三十七年度同

(9) 藥品庫　三坪　大正五年度　改築

工作室　十二坪　同　同

(10) 職工控室　十五坪　同　同

(11) 職員便所　二坪　同　同

(12) 職工便所　六坪　同　同

(13) 事務室便所廊下　一坪　同　同

第一事務所ヨリ工場　三坪　同　同

第二事務所ヨリ工場　七坪　明治四十四年　建築

第三織物工場ヨリ整理室　七坪　大正五年度　改築

第四染色工場織物工場　四坪五合　同　同

第五學校試驗場間　八坪七合　同　同

第六織物工場ヨリ職工控所　一坪　同　同

第七職工便所廊下　一坪　自明治三十五年度至明治三十六年度　建築

第八織物工場ヨリ汽罐場　五坪　大正五年度　改築

第九整理工場ヨリ實習室

以上各室ノ外手織機ノ作業、分析試驗及織物標本陳列等ニハ工業學校建物ノ一部ヲ併用セリ

二、機械器具

本場ハ明治三十五年七月ノ創立ニ係リ爾來十數年間備附タル主ナル機械器具ハ左表ノ如シ卽チ初年度ニ於テハ生糸試驗用具、同糊付機等ヲ設備シ三十六年度ニ羽二重製織試驗ニ要スル一通リノ機具ヲ農商務省ヨリ貸與セラレ以後事業ノ擴張ト共ニ專ラ機械ノ充足ヲ計リ輸出織物加工用機卽チ織機、染色、撚糸、整理、精練、刺繍等最新ノ諸機具ヲ購入シ且ツ工業學校備付ノ機具ヲ利用シ以テ當業者ノ委囑ニ應シ得ル程度ニ達セリ而シテ農商務省ノ貸與機械ハ本場備品漸次補充スルニ從ヒ約三分ノ二ヲ逐次返還シ他ノ一部ハ大正四年度ニ於テ本縣ヘ保管轉換トナレリ

農商務省ヨリ貸與セラレタル機械

名稱	個數	價格	製造所名	借入年月日	返納數及其年月	保管轉換數及其年月
生糸繰返機	八台		佛國デユードリッシ會社製	明治三十六年二月	四十二年十月 八臺	
再繰返機	二		農商務省ヨリ借入	同	大正四年三月 一臺	大正四年三月 一臺
練糸管卷機	一		同	同		同 一臺
合糸再繰返機	二		同	同	四十二年十月 二臺	同
生糸管卷機	二		同	同	同 二臺	同
整經機	五		同	同	三十九年二月 四十二年十月 大正四年三月 二臺 一臺 一臺	大正四年三月 一臺
耳整經機	一		同	同		同
綜絖製造機	二		同	同	四十二年十月 一臺	同 一臺
力織機	五		同	同	大正四年三月 一臺	同 二臺
製織機	五	二〇、〇〇〇円	同	同	同	同 一臺
ボビン卷機	五		同	同	三十九年二月 四十二年十月 大正四年三月 二臺 一臺 一臺	同 一臺
杼	二〇個		同	同		同 二〇個
十五「グラム」「ロッケ」	二、五〇〇		同	同	四十二年十月 二、〇〇〇個	同 五〇〇
大形「ロッケ」	一、〇〇〇		同	同	同 一、〇〇〇	同
整經機「ボビン」	一〇、〇〇〇		同	同	三十九年二月 四十二年十月 大正四年三月 一、六〇〇 一、〇〇〇 三、七〇〇	同 三、七〇〇
鐵葉製管	五〇〇		同	同	四十二年十月 二五〇	同 二五〇
金篋	五〇		同	同		同 五〇
汽罐汽機	一式		同	同		同 一式

（準備機械）

名稱	個數	價格	購入年度	摘要
糊付機	一	一二四九八〇	明治三十五年	京都　田淵鐵工場製
仝	二	一九四二四〇	仝　三十六年	仝　上
合糸糊付機	三	四〇八六〇〇	仝　三十七年	
仝	四	七四〇〇〇〇	仝	
生糸繰返機	五	一〇〇〇〇〇	仝　三十八年	
生糸管卷機	一	三二〇〇〇	大正二年	
糊付機	一	一八〇〇〇	大正四年	
整經機	一	一五〇〇〇〇	仝	
平木製一本裝置十錘掛管卷機	一	一四〇〇〇〇	大正六年	福井　兒玉善太郎

（製織機械）

名稱	個數	價格	購入年度	摘要
佛國式手織機	一	七二四〇〇	明治三十七年	
綜絖製織機	二	一、四六〇〇〇〇	仝	佛國ヂュートリッシ會社製
平織機	二	四三五〇〇	仝　三十八年	元染色學校ヨリ引繼
ジャカード	一	五三〇〇〇	仝	
仝	二	二九〇〇〇	仝　三十九年	
自動バッタン平織機	一	一九五〇〇	仝	
タヲル機	一	二〇〇〇〇	仝	
平田式力織機	一	四五〇〇〇	仝	
田淵式力織機	一	二〇〇〇〇〇	仝　四十一年	京都　田淵鐵工場製（總鐵製）
二反掛絹布力織機	一	八〇〇〇〇〇	仝　四十四年	瑞西ルーチー會社製
リボン力織機	一	六〇〇〇〇〇	仝	大阪木本鐵工場製
鐵製大巾二丁杼力織機	一	一八三〇〇〇	大正元年	米澤西野鐵工場製
佛式平織機	二	一〇二四〇〇	仝　二年	
瑞西製絹力織機	一	九六〇〇〇〇	仝　三年	瑞西ルーチー會社製

重日用力織機	一	八五〇〇〇	仝	大橋式半木製
同同	一	九〇〇〇	仝	宇野式金屬製
同同	一	一〇三〇〇〇	仝	津田式半木製
同同	一	一八〇〇〇〇	仝	仝 二丁杼半木製
綾地織力織機	一	四九〇〇〇	仝 元年	
改良平織機	一	三九〇〇〇	仝 二年	
絹用文織機	一	七五〇〇〇〇	仝 六年	大阪 長瀨傳三郎
原田式鐵製綾織裝置力織機	一	四三七〇〇〇	仝	

（仕上機械）

名稱	個數	價格	購入年度	摘要
糊付乾燥機	一	五、五二七〇〇〇	明治四十一年	獨逸チツタウ會社製
三本ロールカレンダー	一	一、八五〇〇〇〇	仝 四十三年	獨逸シヂハウボルト製造所製
絹布摩擦仕上機械	二	二、九七七〇〇〇	仝 四十四年	瑞西ルーチ會社製
空氣喞筒及氣槽	一	二五七〇〇〇	大正元年	同

內地製巾出機械	一	一、七〇〇〇〇〇	仝	東京 佐野鐵工場製
裏糊付機	一	四九〇〇〇	仝 三年	

（其他ノ機械）

名稱	個數	價格	購入年度	摘要
檢類機	一	四五〇〇〇	明治三十五年	
檢尺機	一	二〇〇〇〇	仝	
檢力計	一	四五〇〇〇	仝	
檢位衡	一	一〇〇〇〇	仝	
檢撚器	一	四八〇〇	仝	
デニール天秤	一	二八〇〇〇	仝	
デニール用原器	一	六五〇〇	仝	
ビヤノマシン	二	一一五〇〇〇	仝 三十八年	元染色學校ヨリ引繼
ジヤカード	一	八二〇〇〇	仝	仝
染色用銅製二重釜	三	一四五〇〇〇	仝 三十九年	

ビヤノマシン	一	七五〇〇〇	仝			
米國式撚糸機械	三	一、三八三〇〇〇	仝	東京　佐野鐵工場製		
ワインダー	一	二〇〇〇〇〇〇	仝	仝		
ダブリング	一	二五〇〇〇〇〇	仝	仝		
揚返機	一	二六〇〇〇	仝	仝		
分折器械	一式	二二五〇〇〇	明治四十年			
顯微鏡	一	七〇〇〇〇	仝　四十一年			
精練機	一式	二、三七七〇〇〇	仝　四十二年	獨逸チツタウ會社製		
染色用角形銅製二重釜	一	一九六〇〇〇	大正元年			
洗滌器	一	一八〇〇〇	仝			
手働刺繍機械	一	一、五七〇〇〇〇	仝　二年	獨逸ケムニツツ、カツヘルカツベル製作所製		
染色用銅製二重釜	一	一九六〇〇〇	仝	京都　鍋島製		
洗滌器	一	一九五〇〇	仝　三年			
練箱	一	四九七〇〇	仝			

百二十八錘上下兼用二段撚糸機	一	七六三〇〇〇	仝　六年	

三、主要機械說明

機械名	繰返機	個數	五台	附屬品	ナシ
實價	一〇〇〇、〇〇〇円	製造所名	京都市田淵鐵工場		
運賃其他	一〇〇、〇〇〇	購入先	仝　上		
計	一一〇〇、〇〇〇	購入年月日	明治三十八年十二月二十日		

特徴　本機ハ大サ前巾十四尺横巾六尺六寸高サ四尺ニシテ鐵製ナリ片側二十窓兩側四十窓、手振ニハ節扱ノ裝置アリ

利用及効果　生糸及練糸用ニ適ス十時間製產高十四デニール生糸約八百四十匁ニシテ所要馬力約〇、〇七ナリ本機ハ地方當業者一般ニ使用セラレスト雖モ撚糸業者及練糸ヲ用ヰル或斯業者ニハ使用セラレタリ

備考　本機ノ購入ハ全部縣費ニテ支辨セリ

機械名	合糸糊付機	個數	參台	附屬品	ナシ
實價	三六〇、〇〇〇円	製造所名	京都市田淵鐵工場		
運賃其他	四八、六〇〇	購入先	仝上		
計	四〇八、六〇〇	購入年月日	明治三十七年十二月五日		

特徴　本機ハ大サ前巾十二尺三寸横巾二尺四寸高サ五尺二寸ニシテ鐵製ナリ窓數十九ニシテ糸二本ヲ引揃ッ、糊付シ一本切斷スルモ直チニ運轉ヲ休止スルガ故ニ一本卷ノ憂ナシ

利用及効果　羽二重經糸糊付用ニ適ス十時間生産高約十四デニール二本合一貫八百匁ニシテ所要馬力約〇、〇七ナリ本機ノ切斷停止裝置ハ大ニ地方當業者ノ注意ヲ喚起シ其ノ原理ヲ採リテ之ヲ從來ノ合糸糊付器ニ應用セントスルモノアルニ至レリ

備考　本機購入費ハ全部縣費ヲ以テ支辨セリ

機械名	合糸機	個數	四台	附屬品	ナシ
實價	七四〇、〇〇〇円	製造所名	京都市田淵鐵工場		
運賃其他		購入先	仝上		
計	七四〇、〇〇〇	購入年月日	明治三十八年三月三十日		

特徴　本機ハ大サ前巾十二尺三寸横二尺四寸高サ四尺五寸ニシテ鐵製ナリ同時ニ糸六本迄ヲ引揃へ

利用及効果　得ラレ各糸個々ニ切繼停止裝置ヲ附屬ス生糸及練糸用ニ適ス十時間生産高十四デニール生糸二本合ニテ約七百五十匁所要馬力約〇、〇七ナリ本機ノ切斷停止裝置ハ地方當業者ノ注意ヲ喚起シ之ヲ應用セントスルモノアルニ至レリ

備考　本機ノ購入費ハ全部縣費ヲ以テ支辨セリ

機械名	米國式撚糸機	個數	壹組	附屬品	ナシ
實價	二、〇九三、〇〇〇円	製造所名	東京市佐野鐵工場		
運賃其他	四〇、〇〇〇	購入先	仝上		
計	二、一三三、〇〇〇	購入年月日	明治四十年三月三十一日		

特徴　本機ノ大サハ繰返機前巾十九尺六寸横巾四尺五寸高サ三尺七寸引揃機前巾十九尺七寸横巾二尺三寸高サ四尺七寸下撚機前巾十九尺六寸横巾一尺八寸高サ四尺二寸上撚機前巾十九尺六寸横巾一尺八寸高サ四尺二寸揚返機前巾十一尺一寸横巾三尺三寸高サ四尺ニシテ何レモ鐵製ナリ繰返機ハ片側三十二枠兩側六十四枠引揃機片側三十一枠兩側六十二枠下撚機片側五十六錘兩側百十二錘上撚機片側四十六錘兩側九十二錘揚返機四枠掛ニシテ一枠十二綛ヲ揚ケ得ラレ各々ニ切斷停止裝置ノ備ヘアリ所要馬力ハ繰返機及引揃機ハ約〇、一上撚機及下撚機ハ約〇、八揚返機ハ約〇、二ナリ

利用及効果　各種糸撚糸用ニ適シ其生産高ハ十四デニール生糸ニテ十時間繰返機約九百五十匁引揃機約一

貫五百匁下撚機約四百三十匁上撚機二本諸約二百三十匁揚返機約六貫目ナリ本機ハ常ニ地方當業者依頼ノ各種試驗用撚糸製造ニ應用シツヽアリ又本機ヲ換造シテ撚糸作業ヲ營ミタルモノモアリ

備考　本機購入費ノ内壹千參百圓ハ國庫補助金ヲ以テシ其他ハ縣費ヲ以テ支辨セリ

機械名	廣部式撚糸機	個數	壹台	附屬品	ナシ
實價	一一五、〇〇〇円	製造所名	福井市　廣部音松		
運賃其他		購入先	仝上		
計	一一五、〇〇〇	購入年月日	大正五年七月廿八日		

特徴　本機ハ前巾七尺五寸横巾七尺五寸高サ二尺七寸ニシテ木鐵混製ナリ在來ノ八丁撚糸機ヲ改良シタル横置兩錘ニシテ錘數三十(兩側ニテ六十)ヲ有シ撚數ハ歯車及枠ノ大小ニ依テ適宜ニ加減シ得ラル

利用及効果　各種撚糸ニ應用シ得ルモ就中縮緬緯撚ニ最モ適合シ其生産高ハ十四、五「デニール」二本合セ撚數三千二百回ニテ十時間約四十八匁ニシテ所要馬力ハ約〇、一ナリ本機ハ地方當業者ニ依テ縮緬緯撚糸用又ハ柞蠶撚糸用トシテ應用セラレツヽアリ

備考　本機ノ購入費ハ全部縣費ヲ以テ支辨セリ

機械名	整經機	個數	壹台	附屬品	ナシ
實價	八二八、〇〇〇円	製造所名	佛國ジユードリツシ會社		
運賃其他		購入先			
計	八二八、〇〇〇	購入年月日	明治三十六年三月		

特徴　本機ハ前巾八尺横巾八尺七寸高サ五尺九寸ニシテ鐵製ナリ八百「ボビン」立臺ヲ附屬ス經糸移動裝置ヲ有スルガ故ニ各經糸長ヲ一定セシムルコトヲ得

利用及効果　生糸及練糸整經ニ適ス十時間生産高羽二重十二丈モノ十二疋ニシテ所要馬力ハ〇、三ナリ本機ハ其ノ儘地方當業者ノ使用スルモノナキモ大阪木本鐵工場ニ於テ模造シタルモノヲ使用シ又ハ經糸移動裝置ハ從來ノ整經機ニ應用シテ使用セル者尠カラス

備考　本機ハ農商務省ヨリ貸與ニ係リ大正三年三月本縣ヘ保管轉換トナレリ

機械名	ジユドリツシ式ドビ付力織機	個數	壹台	附屬品	ナシ
實價	四四三、〇〇〇円	製造所名	佛國ジユドリツシ會社		
運賃其他		購入先			
計	四四三、〇〇〇	購入年月日	明治三十六年三月		

特徴　本機ハ前巾七尺六寸横巾六尺三寸高サ四尺七寸筬巾四十五吋ニシテ鐵製ナリ二十枚綜絖甲ド

利用及効果　ビ―裝置及摩擦間接卷取裝置自働送出及緯糸切斷停止裝置ヲ備フ
本機ハ專ラ綾羽二重、朱子等ノ絹織物製織ニ適ス一日十時間ノ生產高八付羽二重ニテ約四丈
運轉ニ要スル馬力約〇、一三ナリ地方當業者ニシテ本機ヲ大阪木本鐵工場ニテ模造セルモノ
ヲ使用セルモノアリ又本機ノ「ドビー」裝置ノミヲ模造シ之ヲ他ノ任意ノ力織機ニ應用セルモ
ノアリ

備考　本機ハ大正四年三月農商務省ヨリ本縣ヘ保管轉換ヲ受ケタルモノナリ

機械名	綜絖製織機	個數	貳台	附屬品	ナシ
實價	一、四六〇、〇〇〇円	製造所名	佛國ジュドリツシ會社		
運賃其他		購入先	京都市　鳥居精三郎		
計	一、四六〇、〇〇〇	購入年月日	明治三十八年三月二十日		

特徴　本機ハ前巾五尺八寸横巾五尺高サ五尺二寸ニシテ鐵製ナリ綜絖ノ粗密ヲ自由ニ變シ得ル爲メ
換齒車ヲ備フ長及窓數ヲ調査スルニ「ゲーヂ」アリ尙製織中ニ管卷モ同時ニ行ヒ得ル裝置アリ

利用及効果　本機ハ專ラ無双綜絖製織ニ適スルモノニシテ手掛綜絖ニ比シ糸ノ張力一樣ナリ生產高ハ一日
十時間百枚尺八巾甲四枚組物四組ヲ製織シ得ルナリ運轉ニ要スル馬力約〇、一三ナリ地方當
業者ハ本機ニ依ル綜絖ヲ便利ナリトシ製織依賴ヲ受ケシコト多々アリ

備考　本機ノ購入費ハ全部縣費ヲ以テ支辨セリ

機械名	平田式力織機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	四五、〇〇〇円	製造所名	福井市　平田式織機製造所		
運賃其他		購入先	仝　上		
計	四五、〇〇〇	購入年月日	明治四十年三月三十一日		

特徴　本機ハ前巾六尺三寸横巾六尺八寸高サ四尺八寸筬巾三十一吋半ニシテ半木製ナリ自働卷取裝
置及自働送出裝置ヲ備フ

利用及効果　本機ハ專ラ薄絹シフォン輕目羽二重製織ニ適スルモノニシテ一日十時間ノ生產高七匁付羽二
重ニテ約三丈五尺ナリ運轉ニ要スル馬力約〇、〇八ナリ本機ハ地方當業者ノ盛ニ使用スルモ
ノナリ

備考　本機ノ購入費ハ全部縣費ニテ支辨セリ

機械名	田淵式力織機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	二〇〇、五五〇円	製造所名	京都市　田淵鐵工場		
運賃其他		購入先	仝　上		
計	二〇〇、五五〇	購入年月日	明治四十二年二月二十八日		

特徴　本機ハ前巾七尺横巾六尺四寸高ヲ四尺七寸筬巾三十九吋ニシテ鐵製ナリ卷取ハ直接卷取ニシ

利用及効果　テ自働的ニ粗密ノ度ヲ調整ス自働送出裝置及緯糸切斷停止裝置ヲ具フ
本機ハ輕目、重目羽二重製織ニ適ス一日十時間ノ生産高十匁付羽二重三丈五尺運轉ニ要スル馬力ハ約〇、一ナリ地方當業者ハ本式織機ヲ應用シテ傘地ヲ製織セルモノアリ

備考　本機ノ購入費ハ全部縣費ヲ以テ支辨セリ

機械名	二反掛絹布力織機	個數	壹臺	附屬品	ジヤカード機械
實價	八〇〇、〇〇〇円	製造所名	瑞西國ルーチー會社		
運賃其他		購入先	エルレーボルト商館		
計	八〇〇、〇〇〇	購入年月日	明治四十四年七月十七日		

特徴　本機ハ前巾八尺三寸横巾七尺五寸高サ五尺七寸筬巾十八吋ニシテ鐵製ナリ六百五十ノ口セミオツブン式ジヤカード打込度ヲ自由ニ調節スル自動卷取裝置尙緯糸ノ細太ニ依リテ打込度ヲ加減スヘキ調節裝置付ナリ經卷二本緯糸切斷停止裝置ヲ備フ

利用及効果　本機ハ專ラ小巾紋絹織物製織ニ適シ同時ニ二反ヲ製織シ得ルガ故ニ普通織機ニ比シ生産高幾分大ナリ一日十時間三丈物二反ヲ製織ス運轉ニ要スル馬力約〇、五ナリ地方當業者ハ本機ノ骨子タル二巾掛ノ裝置ヲ手織機バツタンニ應用シテ之ヲ使用セルモノアリ

備考　本機購入費ハ國庫補助ヲ以テ支辨セリ

機械名	リボン力織機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	六〇〇、〇〇〇円	製造所名	大阪　木本鐵工會社		
運賃其他	一九、〇〇〇	購入先	仝上		
計	六一九、〇〇〇	購入年月日	明治四十四年十月十八日		

特徴　本機ハ前巾十五尺八寸横巾六尺四寸筬巾三吋十二本掛ニシテ鐵製ナリ自動卷取裝置ヲ備ヘ杼ノ送リハ「ラック」ニヨル

利用及効果　本機ハ「リボン」製織用ニシテ之カ製織ヲ試ミタルニ各部分構造不完全ナルカ如ク「ラック」ノ破損甚ダシクシテ殆ンド實用ニ供シ能ハザルノ觀アリ目下ハ要部ノ修繕中

備考　本機ノ購入費ハ明治四十三年度國庫補助金參千圓ノ内參百五拾圓及ヒ縣費貳百六拾九圓ヲ以テ支辨セリ

機械名	津田式力織機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	九八、〇〇〇円	製造所名	東京市　松尾鐵工場		
運賃其他	五、〇〇〇	購入先	仝上		
計	一〇三、〇〇〇	購入年月日	大正三年三月廿四日		

特徴　本機ハ前巾七尺二寸横巾七尺七寸高サ五尺二寸筬巾四十五吋ニシテ半木製ナリ自働卷取裝置自働送出裝置、緯糸切斷停止裝置ヲ備フ兩側開口タベット附ナルガ故ニ綜絖ノ運動圓滑ナリ

利用及効果　本機ハ專ラ重目羽二重製織用ニ適ス生産高一日十時間ニテ十付羽二重三丈五尺運轉ニ要スル馬力約〇、一三ナリ本機ハ地方當業者ニ依リテ最モ多ク使用セラル、モノナリ

備考　本機ノ購入費ハ全部國庫補助金ヲ以テ支辨セリ

機械名	津田式貳丁杼力織機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	一八〇、〇〇〇円	製造所名	東京市　松尾鐵工場		
運賃其他		購入先	金澤市　津田米三郎		
計	一八〇、〇〇〇	購入年月日	大正三年三月廿四日		

特徴　本機ハ前巾八尺六寸横巾七尺四寸、高サ五尺二寸筬巾五十七吋ニシテ半木製ナリ自働送出裝置、自働卷取調節裝置、緯糸切斷停止裝置片側二丁杼自由變換裝置ヲ備フ及兩側開口タベットト付ニシテ綜絖ノ運動極メテ圓滑ナリ

利用及効果　本機ハ縮緬縞羽二重製織ニ適ス生産高一日十時間ニテ七付縮緬約四丈運轉ニ要スル馬力約〇、一三ナリ本機ハ縮緬織機トシテ地方當業者ニ最モ多ク使用セラル、モノナリ

備考　本機ノ購入費ハ大正三年度國庫補助金壹千貳百圓ノ内ヲ以テ支辨セリ

機械名	絹力織機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	六九〇、〇〇〇円	製造所名	瑞西國ルーチー機械製造所		
運賃其他		購入先	大阪市　エル、レーボルト商館		
計	六九〇、〇〇〇	購入年月日	大正三年十月六日		

特徴　本機ハ前巾七尺横巾五尺四寸高サ六尺八寸筬巾四十吋ニシテ鐵製ナリ密度ヲ調節スル卷取裝置緯糸切斷停止裝置十六枚綜絖用セミオツプン式ドビー裝置及筬打チノ際筬ガ自動的ニ傾斜スル裝置アリ

利用及効果　本機ハ專ラ重目織物製織用ニ適シ生産高一日十時間ニテ三丈五尺運轉ニ要スル馬力約〇、一二ナリ未ダ地方當業者ノ使用スル者ナキモ本機ノ特徴タル筬ノ傾斜スル裝置ハ好箇ノ參考トナレリ

備考　本機ノ購入費ハ大正三年度國庫補助金ヲ以テ支辨セリ

機械名	大橋式力織機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	八五、〇〇〇円	製造所名	福井市　大橋式力織機製造所		
運賃其他		購入先	仝上		
計	八五、〇〇〇	購入年月日	大正四年三月十八日		

特徴　本機ハ前巾七尺二寸横巾六尺七寸高サ五尺四寸筬巾四十五吋ニシテ半木製ナリ自働卷取裝置及自働送出裝置ヲ備フ

利用及效果　本機ハ專ラ重目羽二重製織用ニ適スルモノニシテ生産高一日十時間ニテ十付羽二重約三丈五尺ナリ運轉ニ要スル馬力約〇、一ヲ要ス本機亦地方當業者ニ依リ盛ニ使用セラル

備考　本機ノ購入費ハ大正三年度國庫補助金壹千貳百圓ノ内ヲ以テ支辨セリ

機械名	宇野式二丁杼力織機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	九〇、〇〇〇円	製造所名	福井市　宇野鐵工場		
運賃其他	二八、〇〇〇	購入先	福井市　宇野善右衛門		
計	一一八、〇〇〇	購入年月日	大正四年三月二十二日		

特徴　本機ハ前巾七尺二寸横巾五尺九寸高サ四尺九寸筬巾四十四吋ニシテ鐵製ナリ而シテ片側二丁杼自由變換裝置密度ヲ調節スル自働卷取裝置、自働送出シ裝置綽糸切斷停止裝置ヲ備フ

利用及效果　本機ハ專ラ縮緬、縞羽二重製織用ニ適シ生産高一日十時間ニテ三丈五尺運轉ニ要スル馬力約〇、一ナリ本機ハ本縣下ニ製作セラル、鐵製力織機ノ主ナルモノニシテ特ニ重目用ニ適シ當業者ニ使用セラル、數モ莫大ナリ

備考　本機ノ購入費ハ縣費ヲ以テ支辨セリ

機械名	バルメル機 1糊付乾燥機 2巾出乾燥機	個數	貳臺	附屬品	ナシ
實價	五、五二七、〇〇〇円	製造所名	獨乙國　チツタウ會社		
運賃其他	四七、〇〇〇	購入先	東京市　高島屋飯田合名會社		
計	五、五七四、〇〇〇	購入年月日	明治四十一年十一月二十八日		

特徴　本機ハ大サ前巾九尺七寸横巾十八尺高サ八尺六寸鐵製ニシテ糊付巾出シ乾燥ノ裝置ヲ備フ取扱ニ付テハ絶エス使用スルニ非サレハ「シリンダー」ニ錆ヲ生シ「フエルト」ヲ汚スノ恐アリ又巾出シノ効力比較的薄弱ナリ生産力ハ十時間最急七千六百二十五「ヤール」最緩五千「ヤール」ナリ

利用及効果　本機ハ糊付巾出シ乾燥ヲ要スル一般ノ織物ニ適用シ加工品ハ光澤ヲ增シ一種ノ趣味ヲ附ス實際ノ生産高ハ約三割減、運轉ニ要スル馬力ハ二馬力ナリ

備考　本機ノ購入費ハ明治四十年度ニ於テ貳千四百圓明治四十一年度ニ於テ參千圓ノ國庫補助金及ヒ明治四十一年度ニ於テ百七拾四圓ノ縣費ヲ以テ支辨セリ

機械名	カレンダー機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	一、八五〇、〇〇〇円	製造所名	獨乙國　ハーホルト會社		
運賃其他		購入先	東京市　エル、レイボルト商館ケーマイスナー		
計	一、八五〇、〇〇〇	購入年月日	明治四十四年三月一日		

特徴　本機ハ大サ前巾九尺六寸横巾五尺八寸高サ六尺一寸鐵製ニテ三本「ロール」ナリ中眞「ロール」ハ鐵製ニシテ蒸氣ヲ通シ得ラレ上下ハ「ペーパロール」ナリ上部ヨリ適當ニ壓力ヲ加ヘ得ラレ生産力ハ一萬六千八百七十五「ヤール」ナリ

利用及効果　本機ハ一般ノ織物ニ使用シ得レモ主トシテ絹及絹綿交織ニ適當ス實際生産高ハ十時間ニ於テ九千貳百「ヤール」運轉ニ要スル馬力ハ約一馬力ナリ本機モ東京佐野鐵工場ニ於テ模造シタルモノヲ當地撚糸染工會社紡織會社等ニ於テ使用スルニ至レリ

備考　明治四十三年度國庫補助金參千圓ノ内ヲ以テ購入費ヲ支辨セリ

機械名	ボリサージ（經用）	個	壹臺	附屬品	空氣喞筒及氣槽
實價	三、二三四、〇〇〇円	製造所名	瑞西國 ルーチー會社		
運賃其他	六四、〇〇〇	購入先	東京市 高島屋飯田合名會社		
計	三、二九八、〇〇〇	購入年月日	明治四十四年十一月二十八日		

特徴　本機ハ大サ前巾七尺横巾四尺六寸高サ五尺一寸鐵製ニシテ三十五個ノ金篦ヲ以テ掻ク裝置ニテ空氣「ポンプ」幷ニ空氣槽ヲ附屬ス「ポンプ」ハ空氣ヲ吸入シ空氣槽ニ送リ必要ニ應シテ機械ニ送ルコトヲ得生産力ハ十時間ニ於テ二千六十六「ヤール」ナリ

利用及効果　本機ハ專ラ傘地、タフタニ適用ス之ニ由テ整理セラレタルモノハ經糸整正シテ筋ヲ去リ手觸リ滑カナリ實際ノ生産高ハ十時間ニ於テ一千四百四十七「ヤール」運轉ニ要スル馬力ハ約〇、五馬力ナリ本縣内ニ生産スル傘地ノ多クハ依頼ニ依リ本機ニテ整理シ居レリ

備考　本機ノ購入費ハ明治四十四年度ニ於テ參千圓大正元年度ニ於テ貳百五拾七圓ノ國庫補助金及ヒ明治四十四年度ニ於テ四拾壹圓ノ縣費ヲ以テ支辨セリ

機械名	ボリサージ（緯用）	個	壹臺	附屬品	ナシ
實價		製造所名	瑞西國 ルーチー會社		
運賃其他		購入先	東京市 高島屋飯田合名會社		
計		購入年月日	明治四十四年十一月二十八日		

特徴　本機ハ前巾七尺六寸横巾四尺七寸高サ三尺六寸鐵製ニシテ金篦回轉シツヽ布面ヲ掻ク裝置ニシテ經用「ボリサージ」ノ連結機械ナリ生産力ハ三千百「ヤール」ナリトス

利用及効果　本機ハ經用ト効果畧々同樣ニシテ實際生産高ハ貳千百七十「ヤール」運轉ニ要スル馬力ハ約〇、五馬力ナリ

備考　本機ノ購入費ハ全種類ニ屬スル經用ノ購入費中ニ包含シ居レリ

機械名	テンタリグマシン（内地製巾出機械）	個	壹臺	附屬品	ナシ
實價	一、七〇〇、〇〇〇円	製造所名	東京 佐野鐵工場		
運賃其他	一四二、六〇〇	購入先	東京市高島屋飯田合名會社		
計	一、八四二、六〇〇	購入年月日	大正二年三月二十九日		

特徴　本機ハ大サ前巾八尺六寸横巾三十一尺二寸高サ四尺七寸鐵製ニシテ「クリップ」鎖片側二百七個ニテ水平循環式ナリ又蒸氣吹ノ裝置ヲ備フルヲ以テ湯熨斗ノ代用ヲナス生産力ハ十時間ニ於テ六千七百二十「ヤール」ナリトス

利用及効果　本機ハ巾出乾燥ヲ目的トスル各種織物ニ適用ス殊ニ重目羽二重ハ從來伸子張乾燥ノ方法ニ依リシガ故ニ耳不揃ナリシモ本機ヲ應用スルニ至リテ全ク其欠点ヲ除去シ得タリ實際生産高ハ十時間五千三百七十六「ヤール」ニシテ所要動力ハ約一馬力ナリ本縣精練會社燃糸染工會社㊂染練會社ハ何レモ皆本機ヲ使用スルニ至レリ

備考　本機ノ購入費用ハ國庫補助金ヲ以テ支辨セリ

機械名	刺繍・機	個數	壹臺	附屬品	ナシ
實價	一、五七〇、〇〇〇円	製造所名	獨乙國　ケムニツクカツペル製作所		
運賃其他		購入先	大阪市　エル、レーボルム商館		
計	一、五七〇、〇〇〇	購入年月日	大正三年三月二十九日		

特徴　本機ハ大サ前巾二十尺八寸横巾十一尺高サ八尺七寸ニシテ刺繍セラルベキ布帛ハ上下二段ニ張リ之ニ配置セラレタル刺繍針ハ其數參百參拾六本ニシテ各針ノ距離ハ二十七「ミリメートル」ナリ故ニ二十七「ミリメートル」以内ノ大キサノ模様ナラバ同時ニ三百三十六模様ヲ刺繍シ得ヘク漸次模様ノ大トナルニ從ヒテ針數ヲ省略セバ可ナルモノニシテ實用上最大限度ハ二百四十「ミリメートル」ナリ尚ホ本機ニハ模様ヲ切リ拔ク可キ及物並ニ小形孔ヲ穿ツヘキ錐ヲ有スル器具ヲ附屬シ以テ住意ノ形狀ニ布帛ヲ切リ拔キ又ハ小孔ヲ穿チ得ベシ

利用及効果　本機ハ絹、綿、毛等各種織物刺繍ニ適シ長サ五「ヤード」二枚即十「ヤード」ノ布帛ニ小模様ナレバ同時ニ參百參拾六模様ヲ縫ヒ得ルヲ以テ其生産高ハ人ノ手ニ依リ一個宛ツ縫フニ比スレバ同日ノ論ニ非ズ、動力ハ人力ヲ以テシ使用法モ簡單ニシテ模様「テーブル」上ニ意匠紙ヲ配シ該意匠紙ニハ豫刺繍セムトスル摸様ヲ六倍大ニ描キ機ノ針端ヲ摸様ノ輪廓ニ沿フテ動カスキハ布帛ハ意匠紙ノ摸様ノ如クニ動キ一方ニ「ハンドル」ヲ回轉スレバ針ハ布帛ヲ通シテ往復シ以テ刺繍摸様ヲ現出スルモノニシテ婦女子ト雖容易ニ操作シ得ヘシ本機ハ未タ地方當業者ノ使用セル者ナキモ奈何ニ機械力ガ進歩シ其ノ利用ガ人工ヲ奪ヒツヽアルカノ感念ヲ得セシムル精神的ノ効果ハ大ナリト云フベシ

備考　本機ノ購入費ハ大正二年度國庫補助金壹千七百圓ノ内ヲ以テ支辨セリ

（五）業務並ニ成績（創立以來大正五年度迄）

本場カ創立以來今日ニ至ルノ間施行シ來リシ業務ノ種類ハ多種多樣ニシテ其數又枚擧ニ遑アラスト雖モ之ヲ大別スレハ羽二重準備工程ノ改良ニ關スル試驗、羽二重ノ力織機製織ニ關スル試驗、羽二重ノ精練整理ニ關スル試驗、羽二重ノ足踏織機製織、羽二重製織ニ關スル雜試驗、羽二重ノ以外ノ各種織物製織試驗、撚糸ニ關スル試驗、染色仕上ニ關スル試驗、各方面ヨリ依頼ニヨル試驗、及ヒ刺繍機ノ應用職工研究生ノ養生、當業者實地指導質疑鑑定分析等ニ屬スルモノトス今左ニ項ヲ分チテ概說スル所アラントス

羽二重準備工程ノ改良ニ關スル試驗

羽二重ハ本縣織物中ノ白眉ナルヲ以テ本場業務ノ大部分モ亦本織物ノ改良發達ヲ目的トシテ施行セリ本場事業開始ノ當初卽チ明治三十六年度ニ於テハ佛國「ヂユ―ドリッシ」會社製準備機械ヲ設備シ全機ヲ運轉シテ其範ヲ示スト共ニ當業者ノ依頼ニ應シテ絲繰、再繰、合絲糊付、整經、管卷等ノ加工ヲ成セリ本場カ運用セル此等ノ各機械ハ其ノ價格貴キヲ以テ當業者ハ直チニ其儘採用スルコトヲ得スト雖トモ該機ノ長所ヲ採リテ之ヲ在來使用セル機械ニ應用シ以テ其ノ効率ヲ增進セルハ蓋シ尠少ニ非ス尙ホ生絲糊付機ハ佛國製品中ニモ適當ナルモノヲ得サリシヲ以テ本場ハ一種ノ糊付機ヲ考案製作シテ之ヲ使用セリ

明治三十七年度ニ於テ生絲ノ繰返ニ「バズリン」使用ヲ試ミタリ元來生絲ハ揚枠ノ角ニテ製絲中ニ生シタル「ゴム」質ノ乾燥セサル部分固着シ所謂枠角トナルカ爲絲繰ニ困難ナルヲ以テ生糸ノ價格ヲ決定スルニ絲繰ノ難易ヲ以テ一要件トシ絲繰ノ容易ナラサルモノハ價格割安ナリ本場ハ是等ノ絲ニ向テ歐米ニテ專ラ行ハルヽ「バズリン」ト無色油ノ混和液ヲ使用セシニ其結果甚ダ良好ニシテ未熟ナル職工ト雖トモ更ニ困難ヲ感セスシテ繰業スルニ至レリ卽チ固着ノ狀況ニ應シテ此液中ニ浸漬シテ後絞リ糸打臺ニテ絲條ヲ正シ又ハ固着セル部分ノミヲ浸漬シ又ハ霧吹器ニテ其部分ヲ濕ス等ノ方法ニテ目的ヲ達セリ此ノ方法ニヨリ拾貫ノ生糸ヲ繰返スニ要スル「バズリン」及油ノ費用ハ約五十錢ヨリ壹圓五拾錢ニテ充分ナリ故ニ普通枠角固着セル生糸ハ拾貫ニ付約五六圓方安價ナルヲ以テ寧ロ其割安ノ生糸ヲ求メ已上ノ混和液ヲ使用スル方利益アリトシテ當業者ニ使用セラレタリキ

明治三十九年度ニ於テハ羽二重用糊ノ防腐試驗ヲ施行セリ本場及當業者一般カ從來使用セル羽二重經糸用糊ハ腐敗シ易ク酷暑ノ際ハ一夜ニシテ忽チ其効力ヲ失ヒ冬季ト雖トモ數日ヲ保ツ能ハス爲メニ使用ノ殘部ヲ廢棄スルノ不經濟ト一時ニ多量ヲ調製シ置ク能ハサル不便トハ斯業上輕々ノ問題ニ非サルヲ認メ之カ研究ヲ行ヒタリ、該糊ノ調製ハ水一升布海苔十四匁白蠟八匁晒膠一、五匁ニシテ防腐劑ニハ硝酸亞鉛、硼砂、「サルチル」酸曹達、硼酸、「フォルマリン」等ヲ使用シ其効力ヲ試ミタルニ「フォルマリン」ヲ使用セルモノ最モ有効ニシテ當時八月下旬酷熱ノ際藥品ヲ混セサル普通ノ糊ハ一夜ニシテ腐敗セルニ拘ラス「フォルマリン」ヲ糊量ノ千分ノ一混合シタルモノハ能ク八日間ヲ保チ又費用モ廉ナルヲ以テ爾來本場ニ於テハ常ニ之ヲ混用シ且ツ當業者ニ向ヒテモ勸誘セリ

明治四十年度ニ於テハ糊付生絲ノ伸度及ヒ强力試驗ヲ施行セリ糊原料ニハ布海苔蠟「アムローゼ」「ファリナ」等ヲ使用セシガ其結果ニ付テ見ルニ伸度ハ布海苔ト「アムローゼ」トヲ混用セルモノ最モ大ニシテ强力ハ布海苔ノミヲ以テセルモノ最モ大ナリキ

明治四十一年度ニ於テハ羽二重經糊改良試驗ヲ施行セリ從來羽二重經用糊料トシテハ布海苔、白蠟「ゼラチン」ヲ主体トシテ使用スルハ我國各地共殆ト一樣ナリトス然レトモ此等ノ糊料ハ後ニ行フ精練工程ニ害ヲ及スナキカ又羽二重ノ精練上ニ於テ二十年來ノ欠点トスル俗稱曇ノ原因タラサルナキカ或ハ少クトモ其欠点ヲ助長セシムルノ傾ナキカトハ久シク本場ノ疑問ヲ挾ミシ所ナリシガ故ニ從來ノ糊料ヲ全然使用セズ他ノ糊料ヲ以テ適當ノ羽二重用糊ヲ得ント欲シ其原料ニハ玉蜀黍澱粉小麥粉、米粉、「フワリナ」生麩「アラビアゴム」「ワセリン」「バズリン」「グリセリン」「オレ―フ」油解舒液等ヲ用ヒ反覆數十回ニ亘リ實驗ヲ重ネシモ充分ナル成績ヲ得ル能ハス更ニ後年度ニ於テ之ヲ續行シタリキ

又仝年度ニ於テ福井式整經機ノ改良ヲ試ミタリ本場ニ設備セル佛國製整經機ハ價格八百貳拾八圓ニシテ福井式整經機ハ僅カニ約貳拾五圓ニ過キス元ヨリ機械トシテノ品位精粗等ハ同日ノ論ニ非ラサルモ其生產額ニ至リテハ大差ヲ認メス唯タ福井式整經機ニ於テ最大欠点トスル所ハ經絲ヲ整經機ニ卷取ル際經絲ノ移動裝置ナキコトノ之レナリ羽二重ヲ僅々二三本整經スル場合ニハ此ノ裝置ヲ備ヘサルモ著シキ欠点ヲ見出サスト雖モ本數ヲ多ク整經スル際ニハ甚タシキ欠点ヲ製品ノ上ニ現出ス即チ此ノ裝置ナキモノハ經絲ノ卷カル、ニ從テ山形トナリ山頂ニ於ケル經絲ト山麓ニ於ケル經絲トハ其長サヲ異ニス故ニ其短キモノハ製織ノ際無理ニ引キ延サレ爲メニ此部分ハ練上後縮ンテ著シキ引キツリヲ現出スルニ至ルノヲ防グニハ經絲ノ移動裝置ヲ附シ以テ各經絲ノ整經長ヲ全ク相等シカラシメサルベカラズ由テ福井式整經絲ニ此ノ移動裝置ヲ附シ試用シタルニ成績極メテ良好ニシテ之ニ由テ整經セラレタル羽二重ハ更ニ從來ノ欠点ヲ認メス爾來本場ハ常ニ之ヲ當業者ニ勸誘シ現今多數使用セラル、ニ至レリ

次ニ又仝年度ニ於テ福井式糊付法ニ金澤式糊付法ヲ併用シ之ヲ當業者ニ示シ其利ヲ皷吹セリ即チ福井地方一般ニ施行セラレツ、アル糊付法ハ小枠ニ繰返シタル糸ヲ糊皿中ヲ通過セシメテ更ニ他ノ小枠ニ卷取ルモノトス(一度糊付ノ際ニハ合糸シツ、糊付スルヲ普通トス)金澤地方ニ行ハル、方法ハ小枠ニ繰返シタル糸ヲ底部ニ小孔ヲ有スル糊皿中ヲ通過セシメテ大枠ニ卷取ルナリ兩者ノ得失ニ就テ考察スルニ各々一得一失アリ前者ニアリテハ合糸シツ、糊付工程ヲ施シ得ルノ利益アルモ生產高ハ後者ニ劣ル所アリ又後者ハ生產高ニ於テ前者ヲ凌駕スルモ合糸工程ト糊付工程トヲ同時ニ施シ難キ不利益アリ玆ニ於テカ兩者ヲ併用シ各々其長所ヲ發揮セシメント試ミ一度糊付ノ場合ニハ福井式ヲ採用シテ合糸工程ト糊付工程トヲ同時ニ行ヒ二度糊付ノ場合ニハ最早合糸ノ必要ナキヲ以テ金澤式ヲ採用セリ

以上ノ如ク兩者ヲ併用スル時ハ單ニ福井式ノミヲ以テスルヨリモ大ニ生產力ヲ增スカ故ニ現今ニ於テハ當業者ハ悉ク皆之ヲ併用スルニ至レリ

明治四十四年度ニ於テハ又羽二重經糊ニ澱粉糊ノ應用試驗ヲ施行セリ今回ハ「アドラヂン」及小麥粉ヲ主体トシテ反覆數回ニ亘リ實驗セル結果水一升「アドラヂン」二十匁小麥粉三十匁單舍利別十匁ノ配合ヨリ成ル糊ハ二本附繰返ニ於テ良好ノ成績ヲ得タルカ故ニ之ニ依テ糊ヲ調製シ糊付ヲナシ羽二重ヲ製織セルニ準備工程製織工程共ニ略ボ佳良ニシテ使用ニ適セサルニアラサルモ未タ以テ從來使用シツ、アル布海苔白蠟ヨリ成ル糊ニ比シ好成績ト稱スル能ハス且ツ價格ニ於テモ從來ノ糊ヨリ不廉ナルノミナラス羽二重精練方法ノ研究進ム仝年度ニ於テ糊料櫻糊ノ使用試驗ヲナシタルカ成績良好ナラス

次ニ又粉末布海苔ノ使用試驗ヲ施行セリ此ハ普通ノ布苔海ヲ粉末トナシタルモノナルカ故ニ溶解極メテ容易ナル爲メ著シク手數ヲ省キ從テ燃料ヲ節約スル等ノ利益アリテ其効力ハ普通布海苔ト異ル所ナク充分實用ニ供シ得ルヲ認メ之ヲ當業者ニ紹介セリ

大正元年度ニ於テハ羽二重經糊石鹼ト稱スル糊料ノ使用試驗ヲ施行セリ其成績ハ普通ノ羽二重糊ヨリ幾分粘度ニ乏シキ氣味アリ製織中離脫シ易ク從テ切斷數モ多カリシカハ其製法ニ關シ注意スル所アリキ

大正二年度ニ於テハ椿水使用試驗ヲ施行セリ椿水ハ一種ノ可溶性油体ニシテ本油ヲ羽二重經糊中ニ混用セル白蠟ニ代用スルノ目的ニテ行ヒタルモノニシテ其成績ハ白蠟ヲ使用セル普通糊ニ比シ幾分糸ノ抱合劣ルカ如ク從テ切斷「ヘゲ」ノ類ヲ多少增加セルモ甚ダシキ困難ナク製織シ得タリ

羽二重ノ力織機製織ニ關スル試驗

羽二重ヲ力織機ニテ製織スルノ試驗ハ實ニ本場設立ノ當初ニ於ケル第一ノ使命ナリキ故ニ本場ハ其設立ト同時ニ佛國「デユ―ドリッシ」會社製力織機ヲ設備シ之カ製織ヲ試ミ普ク當業者ニ示スト共ニ之レカ奬勵ヲ怠ラザリキ

明治三十六年度ヨリ三十七年度ニ至ルノ間本場ハ上記力織機ニ依リテ各種羽二重ヲ試織シ其ノ製造ノ狀況ヲ親シク當業者ニ示スト共ニ製品ヲ市場ニ出シ其ノ批評ヲ求メタルニ各商店共何レモ最優等品トシテ特別ノ價

格ヲ以テ買入ヲ申込ミタリ而シテ該製品ノ海外ニ搬出セラルヽヤ直チニ多數ノ注文ヲ見ルニ至リシモ本場ノ限リアル少數ノ機臺ハ其ノ希望ヲ充ス能ハス當時地方一般ノ機業家ハ何レモ大資本ヲ斯業ニ投セサル經營ナルヲ以テ機械製品ノ優逸ナルヲ認識スルト雖モ直ニ之ガ設備ヲ模倣スル能ハス本場モ亦縣經濟ノ關係上劇カニ事業ノ擴張ヲ斷行スルノ運ニ至ルコト能ハサリシハ大ニ遺憾ニ堪ヘサル處ナリキ然ルニ明治三十八年度ニ至リ利ヲ見ルニ敏ナル京阪地方ノ資本家ニシテ這般ノ消息ヲ解スル某實業家ハ比較的資本ヲ要セサル內地製力織機ヲ本場ニ托シ羽二重製織ノ適否ヲ試ミンコトヲ要請シタルニ因リ直ニ之カ試驗ヲ施行セルニ之レ又好結果ヲ得タルヲ以テ之ヲ當業者一般ニ發表セリ

明治三十九年度ニ於テハ本場カ過去二年有餘ニ亘リテ實驗シ口ヲ極メテ推奬セル羽二重ノ力織機製織モ漸ク當業者ノ實際問題トシテ考究セラルヽニ至レリ而シテ本年度內ニ於テハ二個ノ力織機工場ノ設計ヲ依托セラレ一ツハ平田式力織機五十臺他ハ木本式力織機六十臺ニシテ本場ハ之ガ建築設計監督力織機據付職工養成等ニ全力ヲ盡シテ其ノ成功ヲ助ケタリキ

明治四十年度ニ於テハ力織機据付ニ關スル試驗ヲ施行シ好成績ヲ得テ之ヲ本場カ指導シツヽアル工場ニ應用セリ

仝年度ニ於テ重目羽二重ハ製織試驗ヲ施行セリ重目羽二重ハ何レノ力織機ニヨリ製織スルモ腰ノシマリ弱ク又之カ爲メ方言「チカ」ト稱スル欠点ヲ出スヲ常トスルガ故ニ其ノ矯正ニ付實驗ヲ重ネ經糸送出シ裝置ヲ使用シタル上更ニ卷節ノ兩端「ブレーキ」裝置ヲ加ヘタルニ結果良好ナリキ

又仝年度ニ於テ羽二重製織ニ關スル目付試驗ヲ施行セリ此ハ計算上ヨリ豫定セル目付ト實際出來上リノ目付トノ關係ヲ知ラントスルニ在リシカ其結果ハ計算上ノ豫定目付六付半ナリシモノ七付トナリ八付ナリシモ九付トナリ九付ナリシモ九付半トナリ十二付ナリシモ十三付トナリ實際ノ目付ト容易ニ一致シ難キヲ示セリ之レ生糸纖度ノ不揃精練程度ノ不揃、濕度ノ不揃等ハ互ニ相混交シテ計算上ト實際上トノ目付ノ一致ヲ困難ナラシムルヲ以テナリ

又仝年度ニ於テ羽二重製織上工場的經濟試驗ヲ施行セリ之ニ由テ職工一人ニ力織機壹臺ヲ受持タシムル場合ト二臺ヲ受持タシムル場合トノ生產高ノ比又管卷機ニ於テモ四本錘ノ場合ト六本錘ノ場合トノ生產高ノ比ヲ具体的ニ明示シ以テ當業者ヲシテ人員配置上據ル所アラシメタリ

明治四十一年度ニ於テハ力織機ニテ羽二重製織困難ノ場合ニ於ケル救濟方法ニ關シ實驗セリ元來羽二重經糊付ノ巧拙ハ直チニ製織工程ノ難易ニ關スルモノニシテ手織機ニテモ同樣ナルモ力織機ニテハ特ニ著シク影響ス故ニ糊付ノ拙ナルモノヲ力織機臺ニ仕掛タルトキハ其ノ困難名狀スヘカラス依テ斯ル萬一ノ場合ニ際スル救濟方法ヲ考究セルモノニシテ其結果乳糖ヲ「アルコール」又ハ「ベンヂン」等ノ揮發性油ニ適宜溶解シテ乳狀液ヲ造リ霧吹器ヲ用ヒ綜絖前方ニ於テ經糸上ニ霧吹撒布スレハ乳狀液ハ經糸ニ附着シ「アルコール」又ハ揮發性油ハ直ニ蒸散シテ乳糖ノ粉末ノミ糸上ニ固着シ以テ容易ニ製織スルヲ得タリ蓋シ該粉末ノ爲メニ糸ト糸ノ摩擦ヲ大ニ減少シ所謂糸ノ捌キヲ良好ナラシムルニ依ランカ、爾來當業者ニシテ斯ル場合ニ際會シ其苦ヲ訴フルモノニハ常ニ本法ニ依リテ救濟セシメツヽアリ

又仝年度ニ於テ經糸ニ糊ヲ施サスシテ能ク羽二重ヲ力織機ニテ製織シ得ルヤ否ヤノ實驗ヲ試ミタリ其結果原糸ヲ撰擇シ比較的太糸ヲ用ユレハ甚タシキ困難ナクシテ製織シ得ルヲ認メタリ

以上ノ如ク羽二重ノ力織機製織試驗ハ本場事業開始ト同時ニ着手シ約二年餘ヲ經過セシ後三十九年度ニ至リテ漸ク當業者ノ應用スル所トナリ四十二年ノ末ニ於テハ已ニ一千數百臺ノ運轉ヲ見爾來年ヲ閱スルニ從テ力織機臺增加シ反對ニ手織機ハ減少シ大正四年十二月末現在ノ力織機數ハ實ニ壹萬壹千五百臺ニ達シ本縣羽二重ノ大部分ハ織機製品タルニ至レリ

羽二重ノ精練整理ニ關スル試驗

本場設立ノ當初ハ精練設備ナク場內ニ於テ精練試驗ヲ施行スルノ機會ヲ得サリキ從テ本場技術者ハ時々精練營業者ノ工場ニ出入シ之カ伴侶トナリ又指導者タルニ努メタリキ

明治四十年度ニ於テハ練羽二重ニ附着セル柿澁汚点除去試驗ヲ施行セリ斯ハ毎年秋季ニ際シ柿又ハ栗澁ノ生羽二重ニ附着セルモノ精練ノ後層濃色ヲ呈シテ汚点トナリ從來之レヲ除去スルコト能ハサリシカ爲メ當業者ノ損害少ナカラサルノ故ヲ以テ練業者ヨリノ依囑ニヨリ之レヲ行ヒタリ其方法ハ冷水一〇〇〇「グラム」燐酸「アンモニヤ」三「グラム」硫酸(ポーメ六十六度)七「グラム」過酸化「ソーダ」八「グラム」ノ割合ヲ以テ晒白液ヲ造リ普通ノ方法ニヨリ此内ニ汚点ノ部分ヲ浸シ暖室内ニ放置スルコト一夜次ニ同量ノ新液ヲ造リ又浸漬スルコト一夜間ノ後此液ニ各薬品一割宛ヲ増加シテ又此内ニ浸漬放置スルコト八時間ニシテ水洗セリ此レカ成績ハ第一回ニ於テ色相約三分ノ一ニ薄ラキ第二回ニ於テ僅カニ色相ノ殘留スルヲ認メ第三回ニ於テ殆ント白色ニ近カラムルヲ得タリ爾來當業者ハ本法ニ依リテ該汚点除去ヲナシツヽアリ

仝年度ニ於テ濕度計ノ度ト羽二重ノ含水増量トノ關係試驗ヲ施行セリ本試驗ハ本縣絹織物同業組合ガ羽二重檢査上毛髮濕度計ニ依リ増目法ヲ施行セルヲ以テ同濕度計ノ指示スル度即チ%ト其ノ際ニ於ケル含水量トノ關係ヲ詳ナラシメントスルニアリ

其結果次ノ如シ

濕度	濕度5%ヲ増ス毎ニ練羽二重百匁ニ對スル含水量
55% 以下	0.704
55%—60%	1.555
60%—65%	0·860
65%—70%	0.715
70%—75%	0.405
75%—80%	0.855

仝上成績ヲ本縣絹織物同業組合現行増目標準ノ例ニ依リ區分スレバ下表ノ如シ以

備考	絹織物同業組合現行増目	
50%0	50% 以下	3.000
54%—59%	54%—59%	2.000
60%—64%	60%—64%	1·000
65%—72%	65%—72%	現在目記入
3·425		
1·679		
0.905		
0.906		

又仝年度ニ於テ薄絹「ロール」掛適否試驗ヲ施行セリ本試驗ハ本縣ヨリ輸出羽二重精練法施行規則實施上薄絹『ロール』掛ノ適否ヲ試驗スベキ樣照會ニ依リ施行セルナリ其結果ハ精練、水洗、仕上等總テノ場合ニ於テ最モ丁寧ニ注意シテ取扱ハサレハ忽チ經緯共ニ目寄リヲ生シ指頭若シクハ他物ノ强ク觸ルヽコトアルモ尙ホ其ノ部分ノ經糸又ハ緯糸波紋狀ヲ來スナリ故ニ「ロール」掛ノ際ニ下卷工程ノ不完全ナルカ或ハ霧吹ノ濕氣ニ不平均アル場合ニハ織巾全体ニ亘リ緯糸ノ波狀ヲ生ス然レトモ製品ノ光澤及味等ニハ「ロール」掛ノ爲メ差支ヲ生セサルノミナラス寧ロ伸子張ニ劣ラサルヲ認メ得タリ故ニ下卷機ニ多少ノ改善ヲ施シ又霧吹ノ平均ニ注意シ相當ノ熟練ヲ積マバ之ガ爲メ甚タシク時間ト勞力トニ冗費ヲ投セルモ川俣絹同樣「ロール」仕上ヲ行フコト至難ニ非サルコトヲ認メタリ

明治四十一年度ニ於テ農商務省ハ當市黑川練工場ニ羽二重疊除ケ精練方法實驗囑託ノ擧アルヤ本場ハ各般ノ調査及ヒ豫備試驗ニ從事シ且ツ前後數十回ノ實驗ニハ常ニ參與シテ其事業ヲ助力シタリ該試驗ノ結果之カ原

及　昂善ノ豫防方法トシテ發表セル報告ノ要領次ノ如シ

羽二重ノ布面ニ發生スル曇ノ原因ハ第一化學的ニヨリテ生スルモノ第二機械的ニヨリテ生スルモノトニ種アルコトヲ發見セリ而シテ化學的ニヨリテ生スル曇ハ主トシテ「カルシウム」石鹼ニシテ此ノ「カリシウム」石鹼ヲ生成スル主タル原因ハ左ノ三方面ヨリ來ルモノナルコトヲ斷定セリ

甲　羽二重經絲用糊ノ原料タル布海苔

乙　糊調製ノ際使用スル水及製織ノ際緯絲ヲ濕潤スル爲メ用ヰル水

丙　精練一切ノ工程ニ使用スル水

右化學的ニ發生スル曇ヲ絶對ニ防カントセハ左ノ方法ヲ採用スルヲ要ス

一、糊ヲ改良スルコト卽チ布海苔ノ代用品ヲ發見スルカ若クハ絶對ニ糊ヲ使用セサルコト

二、製織並ニ精練一切ノ用水ヲ軟化スルコト卽チ凡テノ用水ヲ軟化スル爲メ軟水機械若シクハ其ノ他適宜ノ軟水方法ヲ講スルコト

然レトモ以上ノ方法ハ當業者現在ノ狀態ト現在ノ設備トニ於テ實行ニ困難ナル事狀多キヲ以テ當分糊料及ヒ用水共ニ現在ノ儘トシテ之ヲ防グノ方法ヲ研究スルノ必要アリト爲シ研鑽ノ結果左ノ手段ヲ採ルヲ最良ノ方法ト認ム

生仕立

一、羽二重ヲ二重ヨリ漸次十六枚ニ合セ兩端ヲ縫合セ綿糸ヲ以テ七ケ所ヲ綴リ之レ普通生仕立ニシテ從來ノ生仕立法ナリ

二、黑川式羽二重疊綴リ針押器ヲ用ユル爲メ鳥居形ノ臺ヲ準備シ六尺ノ間ニ六個ヲ取付ケ生羽二重ヲ一重ニテ順次針ニサシ終テ綿糸ヲ以テ綴リ之レ一枚洗滌ノ生仕立法ナリ

糊抜

第一、攝氏五十度ノ温湯ニ洗曹達三百匁ヲ溶解シ四時間浸漬シタル後引上ケ水洗ヲナス

第二、前記工程ヲ終リ直チニ生羽二重十貫匁ニ對シ鹽酸三「ホンド」ヲ投入シタル冷水ニ六時間浸漬シタル後四十度ノ温湯ニ洗曹達三「ホンド」ヲ溶解シタル中ニ浸スコト三十分間ニシテ引上ケ更ニ温湯ニテ洗フ

精練

練槽ニ六石三斗ノ水ヲ滿タシ一旦煮沸シ硅酸曹達四百匁「マルセール」錨印石鹼一貫匁ヲ投シ溶解スルヲ待チ糊抜セル羽二重ヲ投入シ從來ノ吊シ練リトシ四時間煮沸シタル後引上ケ直チニ洗滌ニ移ル

洗滌

普通洗ノ方法

第一、洗桶ニ攝氏三四十度ノ温湯ヲ滿タシ練槽ヨリ引上タル羽二重ヲ浸漬シ疊綴リノ儘四五回振リ洗ヲ爲ス

第二、洗桶ノ湯ヲ改メ更ニ足踏洗ヲ爲ス

第三、絞水機ニテ絞水ス

第四、絞水後更ニ二回温湯ヲ改メ振リ洗ヒヲ爲ス

一枚洗ノ方法

第二生仕立ノ方法ニテ糊抜、精練及ヒ前記第三洗滌絞水シタルモノノ釣糸ヲ切リ五六疋宛ノ「ロール」掛ケ羽二重ノ如ク「ミシン」ニテ繼合セ其兩端ニ一丈計リノ金巾ヲ縫ヒ付黑川式織物洗滌機ニテ一枚洗ヲナシ洗ヒ上ケタルモノヲ一疋宛ニ解キ再ヒ絞水シテ二重ニ合セ兩端ヲ縫合シテ乾燥ス

「モノポール」石鹼ノ再精練

練槽ニ六石三斗ノ水ヲ滿タシ一旦煮沸シ「モノポール」石鹼四百匁青味少量ヲ投シ溶解スルヲ待チテ直チニ前記普通洗滌シタル羽二重ヲ投シ四五十分間煮沸シテ引上ケ再洗滌ニ移ル

再洗滌

洗桶ニ四十度ノ温湯ヲ滿タシ練槽ヨリ引上ケタル羽二重ヲ疊綴リノ儘三回此温湯ヲ改メ振洗ヒヲナシ更ニ水洗シタル後絞水ス

以上ノ工程ヲ經ルトキハ十三匁付迄ノ重羽二重ノ曇リハ全然之ヲ除去スルコトヲ得ベシ

次ニ機械的ニ因リテ生スル曇リヲ除去スル方法左ノ如シ

一、織伸子擦レ曇　製織ノ際使用スル竹伸子ノ爲メ摩擦セラレ毛羽立チタル部分ハ曇リトナリテ現ハルヽカ故ニ伸子ヲ改良スヘシ

二、精練中摩擦ノ曇　精練ノ際十三匁付以上ノ重目羽二重(二度練ニテ長時間ヲ要スルモノ)ニ於テハ表面練過ノ爲メ少シノ摩擦ニハ毛羽立チ爲メニ無數ノ粉末様ノ曇現ハルヽカ故ニ之レヲ防クニハ左ノ方法ニ依ルベシ

麻布包被ノ生仕立　生羽二重ヲ二重ニ合セ兩端ヲ「ミシン」ニテ縫ヒ而シテ針押器ヲ鳥居形ノ臺ニ六尺ノ間六個ヲ取付ケ最初一丈三尺ノ麻布ヲ牢バ迄針ニサシ而シテ羽二重ヲ順次針ニサシ終テ後麻布ニテ包被シ六ケ所ヲ綿糸ニテ綴リ然ル後精練ス

三、生折レ曇　生折レ皺モ又曇トナリテ顯ハルヽコト多シ之レヲ防クニハ從來ノ吊シ練ヲ廢シ枠裝掛置ニテ練リ上クベシ

右第二、第三、ヲ完全ニ防止センニハ現今ノ設備以外ニ完全ナル機械ノ裝置ヲナスヲ要ス而シテ以上ノ工程ヲ經ナバ十三匁付迄ノ重目羽二重ハ勿論十四匁付以上ノ重目羽二重ニ生スル曇リモ又全然之ヲ除去シ得ベシ

大正元年度ニ至リ農商務省ハ又羽二重ニ精練改良ノ實驗ヲ本縣絹織物同業組合ニ囑託セリ蓋シ前年黑川氏ニ囑託シ曇除去方法ニ就テハ略ホ解決ヲ告ケタルカ如キモ同方法ニ依レバ特種ノ處理ヲ要シ從テ工費増大スルヲ以テ未ダ一般ニ應用スルニ至ラス且ツ從來ノ精練方法ハ機械ノ應用ニ俟ツ所頗ル乏シキノ憾アルヲ以テ更ニ此方面ニモ努力スベキヲ指定シテ實驗ヲ囑託セラレタルナリ玆ニ於テカ絹織物同業組合ハ組合員精練會社工場主任本場職員ノ内ヨリ技術員ヲ撰定シ實驗室ヲ精練會社工場及ヒ本場ト定メ幾十回ニ亘リ實驗ヲ施行セリ

大正二年度ニ於テ本縣絹織物同業組合ハ本省ヨリ囑託セラレタル精練改良研究試驗ノ全部ヲ當試驗場ニ囑託シ爾來全試驗ハ專ラ本場ニ於テ施行スルニ至レリ、今全年度内ニ於テ施行セル主ナル試驗ヲ擧クレハ獨逸國「チツタウ」曹社製「ボイリングアツバラタス」ヲ十一號精練機使用試驗、羽二重卷練試驗、羽二重高温高壓精練試驗、羽二重糊抜試驗、荒井式整理機使用試驗、羽二重乾燥試驗等ナリトス

以上ノ内好成績ヲ得テ其結果ニ依リ現ニ本場並ニ本縣精練會社ニ於テ應用セルハ羽二重乾燥方法ナリトス斯ハ從來ノ羽二重乾燥方法ノ迂遠ニシテ缺点事故多キニ鑑ミ「テンタリング、マシン」ヲ應用シテ之カ乾燥ヲ試ミタルモノニシテ本試驗ニ供シタル機械ハ東京佐野鐵工場製巾八尺六寸高四尺七寸長三十一尺二寸「ラデュータ」十八本ヲ備ヘ「クリップ」鎖片側二百七個ヲ有シ水平循環式巾出機ナリ使用巾鯨尺九寸ヨリ二尺五寸迄ニシテ十時間ニ於ケル速度最緩二千百二十五「ヤール」最急五千四百「ヤール」トス乾燥度羽二重十匁迄ハ蒸汽管ノミニテ乾燥シ得ルモ以上ノ重目物ニアリテハ火力ノ助ケヲ要ス本機使用ノ成績ハ頗ル良好ニシテ完全ニ巾出得ルコト巾ノ一定スルコト及ヒ伸子穴ヲ生セサルコト等ハ最モ長所トスル所ナリ

大正三年度ニ於テモ引續キ本場ハ精練改良實驗ニ努力シ遂ニ略ホ目的ヲ貫徹スルヲ得タリ

今主ナル試驗事項ヲ擧示スレバ普通練槽ノ庭部ニ二重ノ虚底ヲ設ケテ精練スル試驗、羽二重釣リ方ニ關スル試驗、苛性曹達ノ應用試驗各種精練用石鹸使用試驗、加里石鹸應用試驗、羽二重洗滌試驗、羽二重乾燥仕上試驗、普通精練槽ノ四壁ニ麻布ヲ裝置シテ精練セル試驗、漂白劑應用精練試驗等ナリトス

以上ノ内好結果ヲ得テ現ニ本場及本縣精練會社ニ於テ實用シツヽアルモノハ一「フエルトカレンタ」機ヲ應用セル羽二重乾燥仕上ノ方法ニシテ本機ハ東京佐野鐵工場ノ製作ニカヽル其大サ巾曲尺七尺四寸長七尺三寸高八尺中央ニ經一尺ノ鑄鐵製ノ「ロール」アリ蒸汽ヲ以テ加熱セラレ其大部分ヲ覆フ所ノ「フエルト」ト共ニ廻轉ス「ロール」ノ前方ニハ巾出裝置又其前方ニハ蒸汽吹付裝置アリ生産高ハ一時間最急千二百七十五「ヤール」最緩四百七十碼ナリ輕目物ニ在リテハ絞水機ニテ絞水シタルモノヲ直ニ本機ニ移シテ乾燥仕上スルコトヲ得レリ

トモ重目物ニ在リテハ普通ニ施行スル如ク絞水シタル後乾燥室ニ於テ乾燥スルカ又ハ「テンタリング、マシン」ニテ乾燥シタルモノヲ其儘若クハ霧吹又ハ「ゼラチン」吹キヲ行ヒテ本機ニ通スレハ布ハ先ツ蒸汽ヲ吹キ付ケラレ次ニ巾出裝置ニ依テ充分皺ヲ延サレ最後ニ鐵「ロール」ト「フエルト」トノ中間ヲ經テ乾燥セラルルト同時ニ適當ナル味光澤等ヲ附與セラルルモノナリ、普通羽二重乾燥「ロール」ニアリテハ唯タ單ニ乾燥ノ目的ヲ達スルニ過キスシテ布面ハ「ロール」ノ爲メニ壓迫セラレ偏平トナリ地合手薄トナルノ傾アルノミナラス完全ニ皺ノ延ヒサル缺点アリ然ルニ本機使用ノ成績ハ極メテ良好ニシテ布ハ壓迫セラルルノ恐ナク且ツ「ロール」ト「フエルト」トノ間ニアリテハ單ニ乾燥セラルルニ止マラス恰モ蒸布スルカ如キ作用ヲ受ケ爲メニ纖維膨脹スルカノ如ク一種云フ可カラサル「フツクリ」セル手觸リ味ヒヲ附與セラル而シテ光澤モ充分ニシテ皺モ又完全ニ引延シ得ラルルコト前記ノ如シ

(二)羽二重洗滌ヲ完全ナラシムルベキ洗滌機械ノ設計製作ナリ今其構造ヲ畧述センニ巾曲四尺六寸長七尺五寸高四尺二寸ナル四角形ノ槽ノ中間ヲ板ニテ仕切リ二槽ニ區分ス而シテ第一槽ノ水溢ルレバ第二槽ニ入リ第二槽ノ水溢ルレハ槽外ニ流出スル裝置トナリ兩槽中ニハ各々二個ノ「ブラッシュ、ローラ」アリテ羽二重ハ表裏共此ノ「ローラー」ニ接觸シ該「ローラー」ノ急速ナル回轉ニ依リテ布面ハ摩擦セラル「ローラー」四個ノ内初メノ一個ハ布ノ進行ト反對ノ方面ニ廻轉シ布面ヲ摩擦スルト同時ニ布ニ適當ナル張力ヲ與ヘ他ノ三個ハ同方向ニ廻轉シテ布面ヲ摩擦洗滌ス凡テ此等ハ温湯中ニアリテ操作セフレ羽二重ノ槽外ニ出ントスル部分ニハ注水管アリテ清水ヲ噴出シ布面ノ表裏ヨリ注水シテ更ニ完全ニ之ヲ洗滌シ槽中ノ水ハ槽底ニ備ヘタル加熱管ニ依テ常ニ加熱セラル其他布面ト「ブラッシュ、ローラー」トノ接觸度ヲ任意ニスヘキ「テンション、バー」及ヒ「ガイドローラー」等ヲ備フ本機ヲ使用スルニハ練槽ヨリ引上ケタル羽二重ヲ先ツ普通ノ洗槽ニ投シ水洗シ次ニ絞水機ニテ絞リ五疋乃至十疋ヲ縫ヒ合セ下卷シテ本機ニ通シ充分ニ洗滌ノ目的ヲ達シ之ヲ一疋宛解キ又絞水機ニテ絞リ上クルナリ　從來羽二重ノ洗滌ハ折リ疊ミタル儘洗槽中ニテ數回振リ洗ヒスルニ過キサルカ故ニ洗滌不充分ノ個所ヲ生シ雲班ノ現出ヲ見ルコト多シ然ルニ本機ヲ以テ洗滌スルトキハ温湯中ニ於テ布ノ表裏兩面ヨリ「ブラッシュ、ローラー」ニテ急速ニ摩擦セラルルカ故ニ不純物ハ悉ク除去セラレ液面ニ浮ブト共ニ槽外ニ流レ去リ尚ホ最後ニ洗槽ヨリ出ル際ニハ噴出清水ヲ表裏兩面ヨリ注キカケ以テ一点ノ附着物ヲモ亦殘存セサルニ至ラシメ完全ニ洗滌ノ目的ヲ達スルヲ得ルナリ

(三)加里石鹸ノ應用ニ在リテハ石鹸製造ノ際原料トシテ苛性曹達ヲ使用スル代リニ苛性加里ヲ以テシ植物油ヲ鹸化シテ造レル一種ノ加里石鹸ヲ使用シテ精練ヲ施行セルナリ其成績ハ加里石鹸ニ炭酸加里ヲ併用セルモノハ曹達石鹸ニ硅酸曹達或ハ重炭酸曹達ヲ併用スル普通ノ方法ニ比シテ光澤、白及手觸リ等凡テ著シク優良ナルヲ認メ尚ホ精練操作中生スル「スカム」ノ量モ加里石鹸ヲ用ユレハ曹達石鹸ノ塲合ニ比シ極メテ少キヲ認メタリ

(四)還元漂白劑ノ應用ニシテ斯ハ羽二重ノ色合ヲ一層純白ナラシムルタメニ精練浴中ニ「ハイドロ、サルフワイド」ヲ使用セルナリ本精練ヲ實施スルニハ精練浴ヲ第一、第二、ト區別シ第一浴ハ加里石鹸、炭酸加里、「ハイドロ、サルフワイド」ヲ以テ溶液ヲ作リ此ノ中ニテ適當時間精練シ次テ加里石鹸、炭酸加里、苛性加里「グリスリン」青味染料等ノ溶液ヨリ成ル第二浴ニ移シ又適當時間精練シタル後普通ノ如ク洗滌乾燥仕上ヲ施行スルモノトス　本法ニ依テ精練セル羽二重ハ白、光澤、手觸共ニ完全ニシテ雲斑ノ附着ヲ認メス現時本縣精練會社ニ於テ特別練ナル名稱ヲ附シテ施行セルモノ卽チ之ナリ

尚ホ本塲ニ於テ施行セル精練試驗ノ結果ニ依リ本縣絹織物同業組合ガ農商務省ニ報告セル要点ヲ摘錄セハ次ノ如シ

雪班附着ノ原因ハ次ノ四種ニ起因シ其結果ハ三種ニ區別シ得ヘシ

(一)製織中伸子其他ノ摩擦並ニ精練工程ニ至ル迄ニ受ケタル纖維ノ破壞ニシテ雲班ト同樣ノ觀ヲ呈ス卽チ生擦レト稱スルモノナ

(二)精練工程中摩擦ニヨリ生シタルモノニシテ其結果ハ(一)ト同一ニ纖維ノ破壞ニ原因ス是レ卽チ釜擦レト稱

シ其形狀多クハ吊繩ノ点ニ集注シテ生セル折目ノ摩擦ニシテ常ニ光線ノ放射線狀ヲナスモノ多キヲ以テ俗ニ之ヲ「サーチライト」ト呼ヒ居レリ之レヲ顯微鏡下ニ照セバ(一)ト同シク纖維ノ破壞ニシテ稀ニハ「スカム」ノ附着ヲ伴フモノアリ從テ多クハ純粹ノ雲班ト稱スヘキモノニ非ザルモ一見同一ノ外觀ヲ呈スルヲ以テ普通ニ雲班ト稱セラル

(三)直接蒸汽ヲ以テ加熱セル塲合比較的高壓ノ蒸汽ヲ練槽中ニ吹込ムニ當リ羽二重ヨリ脫離シタル蠟其他ノ不純物ヨリ成ル「スカム」ガ急激ニ高温ノ汽泡ニ觸レテ融解シ直チニ羽二重ニ粘着凝固シ慧星狀ニ小汽泡ノ集合ヨリ成ル雲班ヲ生スルコトアリ此ノモノハ多ク機械的ニ組織間ニ附着セルモノニシテ顯微鏡ヲ以テ檢スルモ纖維ノ破壞ノ伴フコト少シ

(四)此ノ種ニ屬スルモノハ「スカム」其他ノ不純物ヲ含ム練液カ洗滌セラレサル前ニ凝固スルモノニシテ以上三種ノ原因ヨリ來ル雲班ト異ナリ一定ノ形狀及輪廓ヲ有セズ白色ノ雲ノ如キモノナルヲ以テ之ヲ雲班ト稱スルナリ即チ從來ハ此ノ種類ニ屬スルモノ最モ多ク(一)(二)(三)ノ如キハ始ント問フ所ニ非ス全ク羽二重ノ雲班問題ヲ惹起セル首魁ニシテ代表的ノモノナリトスサレバ比較的摩擦スルコト少キ輕目物ニアリテモ常ニ此ノ雲班ニ苦シミツヽアルナリ之レ雲又ハ靄ノ名稱ヲ得タル所以ナリトス

次ニ前記四種ノ原因ニ依リ生スル所ノ欠点ヲ防止或ハ除去センガ爲メ實驗セル結果ノ優良ナルモノヽ要領ヲ擧クレバ

(一)ハ製織上其他取扱ノ注意ニ依リテ防止スルヲ要ス就中伸子摩擦ヲ防クニハ布帛ヲ卷キタル伸子ヲ用キレバ有効ナリトス

(二)及(三)ハ精練中可成摩擦セサル樣靜置シテ精練スルヲ要ス然ルニ從來施行シツヽアル普通方法ニ依ルトキハ靜置スレバ練斑ヲ生スルノミナラズ絶エズ之レヲ振動シテ組織中ニ存在スル糊料「セリシン」其ノ他含有物ノ除去ヲ促進セシメ尙ホ且ツ蒸汽ヲ强ク加ヘ以テ精練力ノ增進ヲ計ルニ非レバ重目羽二重ノ精練ハ容易ナラズ之ヲ以テ普通練ニ於テハ(二)(三)ノ欠点ヲ避クルコト困難ナリキ然ルニ加里石鹼ト還元劑ヲ併用スルノ精練方法ニ依ルトキハ加里石鹼ノ精練力ト還元劑ノ作用ト相俟テ良好ナル成績ヲ呈シ從テ之ヲ絶エズ振動セシムルヲ要セス僅カニ精練中數回靜カニ其位置ノ轉換ヲ行ヘバ足レリ又蒸汽温度モ攝氏九十七度迄ニテ充分所期ノ目的ヲ達シ得ベシ尙此際注意スベキハ生仕立ニシテ之ヲ碼疊トナシ吊繩ト綴糸トノ間ニ一種ノ釣ノ一列ヲ有スルモノヲ附スルカ又ハ弓張型綴糸ノ裝置ヲ用キレバ練液ヲシテ各布帛間ヲ平均ニ通過セシメ得ルノ便アリトス

(四)ノ欠点ヲ防止又ハ除去スルニハ

(イ)精練用水ニ軟水ヲ撰フコト

(ロ)精練劑ノ撰擇即チ「アルカリ」强ケレバ雲班ヲ生スルコト少ナキモ全般ニ纖維ノ破壞ヲ來シ光澤ヲ損スルモノナリ

(ハ)練液ハ最初ニ充分煮沸シテ「スカム」ヲ除去シ用キルコト

(ニ)生羽二重ノ糊拔ヲ充分ナラシムル爲ニ浸漬時間ヲ長クシ且ツ皺ヲ生セサル樣注意スルコト

(ホ)加熱裝置ヲ完全ニシ平均ニ加熱セシムルコト

(ヘ)練上ニ供スル精練液ヲ成ルベク淸澄タラシムルコト

即チ最初ニハ二番練液ニ適當ノ精練劑ヲ加ヘテ半練以上ノ精練ヲ行ヒ直チニ之レヲ新規ニ作リタル練液中ニ移シテ精練シ練槽中ヨリ取出スヤ否ヤ温湯中ニ移シ引續キ温湯ヲ用キテ數回洗滌スルトキハ冷氣ニ觸レテ凝固スル雲班ヲ生スルノ欠点ヲ防止スルコトヲ得ベシ就中所用石鹼ノ性質上凝固点高キ曹達石鹼ヲ用ヒタルモノハ單ニ此方法ノミニテハ防止シ難キモ加里石鹼ノ如キ凝固点低キ石鹼ヲ使用セル塲合ニハ容易ニ洗滌ノ際溶解シ去ルヲ以テ從テ此ノ種ノ雲班ヲ防止シ易シ尙此ノ際前記ノ洗滌機ヲ應用スレバ一層成績良好ナリトス

羽二重ノ精練整理ニ關スル試驗ハ以上述ブルガ如ク畧ボ一段落ヲ告ゲシヲ以テ大正五年度ニ於テハ「フランス」縮緬絹紬ニ關スル精練整理ヲ施行シツヽアリ

羽二重ノ足踏織機製織試驗

羽二重ガ手織機製織ヨリ漸次力織機製織ニ推移スルハ自然ノ趨勢ニシテ足踏織機ノ如キ又一顧ノ價値ナキガ如キモ由來本縣殊ニ郡部ニ於テハ出機組織ニシテ機業家ガ賃織業者ニ原料ヲ供給シテ製織セシムルモノ多々アリ概ネ農家ノ副業ニ之ヲ營ムモノニシテ産業奬勵上極メテ有益ナル勞力利用ノ方法ナリ此等ノ賃織業者ハ各戸一機若シクハ二機ヲ動スニ過キザレバ之ヲ力織機ニ變轉セシムルコトハ極メテ因難事ナリトス然レトモ手織機製品ニテハ到底品質ノ一定ヲ望ム能ハズ時代ノ要求ニ投スル能ハサルカ故ニ此種ノ出機組織ニ適合シ且ツ力織機製品ニ略ボ匹敵スルモノヲ得セシムルニハ足踏織機製織ヨリ他ニ途ナシト信シ四十年度ニ於テ黑柳式足踏織機ニ依リ羽二重ヲ試織セルニ成績良好ニシテ重目物巾廣物ニハ不適當ナル如キモ巾狹物ニシテ比較的輕目物ニハ極メテ適當シ製品モ力織機製品ト大差ヲ認メス手織機製品ニ比シ遙ニ良好ニシテ生産高モ亦大ニ增大スルヲ見タリ幾何クモナクシテ本縣内ニ羽二重用足踏織機ノ製作者續出シ當業者ハ續々之ヲ使用シ殊ニ縣下南條郡ノ如キハ尺五巾輕目物ノ製産地ナルカ故ニ最モ該機ノ使用ニ適シ之ヲ應用セルモノ最モ多ク大正四年十二月ノ調査ニ依レハ縣下足踏織機數約二千臺ヲ算スルニ至レリ

羽二重製織ニ關スル雜試驗

明治三十六年度ニ於テハ本場備付ノ綜絖製織機ニテ製織シタル綜絖ヲ當業者ニ提供シ且ツ之カ賃織ヲ爲セリ抑モ本場製作ノ綜絖ハ丈鯨一尺一寸五分ニシテ當地方ニ行ハル、手編綜絖ヨリ約二寸五分乃至三寸長ク從テ原料ノ多量ヲ要スルヲ以テ機業家ハ一時ニ多額ノ出金ヲ好マス其ノ保存期限ノ長キ爲メニ利益ナルニ關セズ之レヲ使用スルモノ少ナカリシガ如シ又當地ノ職工ハ本場製作綜絖ノ窓小サキ爲メ糸通シ困難ナリトテ是ヲ嫌フノ風アリキ此ノ窓ノ小ナルコトハ元來綜絖ノ一要件ナルニ此ノ如キ風アルハ全ク手慣レザル爲メニシテ職工モ慣ル、ニ從ヒ其ノ苦情ヲ訴ヘザルニ至レリ

綜絖ノ保存期間ハ使用スルモノ、取扱ノ如何ニ關シテ長短アルハ言ヲ待タサル處ナルモ本場ノ機臺ニテ試驗セシ處ニ依レバ英國「コ―ツ」製三十番六本合セノ「カタン」絲ノ綜絖ハ優ニ二十本(一本六丈トシテ)以上ノ羽二重ヲ製織シ得ルガ如シ

明治三十八年度ニ於テハ金筬及竹筬ノ比較試驗ヲ施行セリ此等兩者ノ價格ヲ比較スルニ竹筬二四用一枚貳圓八拾九錢ニシテ金筬ハ拾五圓九拾六錢ナリ卽チ價格ニ於テ金筬ハ竹筬ノ五倍半ナリ而シテ竹筬ニ由テ六付半羽二重十五本製織シ得タルニ金筬ニテ此數ノ五倍半ハ到底覺束ナキカ如シ左レバ單ニ價格ノ上ヨリ見ル時ハ竹筬ヲ用ヰル方利益ナリト云フヲ得ベシト雖ドモ製品ヲ比較スルトキハ金筬ヲ使用シタルモノ優等ナルコト論ヲ待タズ然レトモ竹筬ニテモ使用ニ際シ注意ノ如何ニ依リテハ始ンド相匹敵スル製品ヲ得ルコト難キニアラズ之レヲ經驗ニ徵スルニ重目物トナルニ從ヒ竹筬ハ金筬ノ敵ニ非ラサルコトヲ知ル之レ重目物ニアリテハ竹筬破損ノ割合多キヲ以テナリ又竹筬ハ其取扱ヒ及ビ修繕ノ点ニ於テ大ニ便利ニシテ製織中ト雖トモ容易ニ筬羽ノ差替ヲナシ得ルニ反シ金筬ノ修繕ハ容易ナラズ且ツ當地ニテハ比較的竹筬ノ製造法發達スレトモ金筬ハ修繕スルコト不能ノ不便アリ要スルニ小數ノ力織機ニテ羽二重ヲ製織スル場合ニ於テハ充分ノ注意ヲナシ得ルヲ以テ竹筬ヲ用ヰルモ(比較的薄物ノ場合)不可ナシト雖モ多數ノ機臺ヲ有スル工場ニ在ツテハ金筬ノ勝レルニ如カズト信ズ

明治四十年度ニ於テハ針金綜絖使用試驗ヲ施行セリ實驗ニ供セルハ佛國製三十三番三十三「センチメートル」ノ針金綜絖ニシテ之ヲ織機ニ裝置シ薄絹及羽二重ヲ試織シタルニ少シモ破損ナク又經絲ノ切斷ニ及ホス影響モ普通「カタン」絲製無双綜絖ト大差ナシ殊ニ經絲ノ粗密ニ應シテ綜絖密度モ容易ニ加減シ得ルハ最モ便利トスル處ニシテ耐久力モ價格ニ比シテ糸製綜絖ヨリ勝レルガ如シ唯ダ職工不熟練ノ爲ニ經絲切斷ノ際引通シ時間ヲ要シ製織力ヲ減殺スルモ漸次熟練スルニ從テ此ノ不便ハ除キ得ベシ其後針金綜絖ハ内地製ニテ安値ナルモノ供給セラレ本場モ之ヲ奬勵シタルヲ以テ現今ニテハ本縣當業者モ普ク使用スルニ至レリ

明治四十一年度ニ於テハ内地製力織機ニ内地製「ドビ―」機ヲ簡單ニ裝置シ各種織物ヲ試製シ其機構ヲ當業者ニ示シタリ

又仝年度ニ於テ竹筬ト福井製金筬トノ比較試驗ヲ施行セリ　茲ニ云フ福井製金筬トハ從來ノ金筬ノ如ク金羽ヲ半圓形ノ鐵棒ニテ狹ミ針金ニテ編ミ付ケ此レヲ「バンダ」ニテ蠟付シタルモノト異リ普通竹筬ト同一製法ニヨリ唯ダ竹羽ニ代ユルニ鐵羽ヲ以テシタルモノナリ即チ鐵羽ヲ半圓形ノ竹棒ニテ狹ミ糸ヲ以テ編ミタルモノナレバ修繕最モ便ニシテ且ツ價格モ前者ニ比シ頗ル低廉ナリトス兩者ニ由テ六付羽二重ヲ製織シ其耐久力ヲ驗スルニ金筬ヲ用ヰタル場合ハ一機十本宛整經シ十回卽チ製織高合計百本ニシテ此間筬ノ修繕四回ナリ竹筬ヲ用ヒル場合ニハ一機六本宛整經シ六回乃チ製織高合計三十六本ニシテ此間筬ノ修繕仝シク四回ナリ依テ兩者ノ價格並ニ修繕費ヲ比較スレバ左ノ如シ

金筬價格（一寸間百枚二尺四寸巾）	金五圓貳拾錢
四回修繕料	金貳圓八拾錢
合計	金八圓
竹筬價格（仝上）	金貳圓七拾錢
四回修繕料	金壹圓參拾錢
合計	金四圓

是ニ由テ之ヲ觀レバ前者筬費用八圓ヲ以テ能ク百本ノ羽二重ヲ製織シ得ラル、ニ對シ後者ハ筬費其ノ半額四圓ニ對シテ製織量ハ約五分ノ二ニ過キス而カノミナラズ前者ハ一回十本宛整經シ得ラル、ニ對シ後者ハ六本以上ヲ整經スル能ハズ從テ工費及ヒ屑糸經濟ノ上ニ於テ且ツ又製品々位ノ点ニ於テモ前者ヲ以テ勝レリトス

羽二重以外ノ各種織物製織試驗

羽二重ハ實ニ本縣工業ノ生命トモ稱ス可キ產業ニシテ其盛衰ハ正ニ斯業ノ死活ニモ關スルヲ以テ本場モ創立以來其改善ニハ全力ヲ盡シテ努力シタリ然レドモ該織物需要モ亦時ニ變動アル而己ナラズ織染業發達ノ趨勢ハ單ニ斯ル簡單ナル原料的ノ織物ノミニ甘ンズベキニアラズ漸ヲ追テ更ニ高等ナル技巧ヲ要スル織物ニ轉化セザル可カラザルコトハ理ノ見易キ處ナルカ故ニ本場モ余力ヲ割キテ常ニ新規織物ノ製織研究ニ怠ラザリキ明治四十四年度ニ於テハ「シフオン」ハ製織試驗ヲ行ヘリ同品ハ海外ニテ需要尠カラズ又本縣當業者ノ熟練セル生織物ノ一ナルヲ以テ最モ推移シ易キヲ思ヒ之ヲ試織セリ

（原料）經緯絲共十四「デニール」撚數一「メートル」ニ付二千五百回（密度）筬一寸間百二十枚經糸一目一本通シ緯絲一寸間百二十本（丈尺）巾二尺五寸長十二丈（量目）十二丈物百四十四匁

本品ハ精良ナル原糸ヲ撰用スルコト最モ緊要ナル事項ニシテ又撚數多キガ故ニ特別ナル加工ヲ行ハズシテ直チニ之ヲ用ヰレバ縮上リテ取扱ニ困難ナルヲ以テ此ノ不便ヲ補フ爲メ次ノ糊ヲ施シタリ

水	一升	フワリナ	四十匁
麥粉	二十匁	白蠟	二匁

同時ニ又縞「シフオン」ノ製織試驗ヲ行ヘリ本品ハ印度向輸出品トシテ有望ナルモノナリ

右試驗方法ハ縞經絲十四「デニール」二本諸撚、撚數一「メートル」五百回筬一目四本入地經絲及緯絲全部一「メートル」二千回ノ片撚ヲ用ヰ其他ハ前項ト同一ナリ

以上二項ノ試驗ニ於テ無地「シフオン」ハ撚數二千五百回以上三千回ニ近クニ隨ヒ製品倍々佳良ニシテ縞「シフオン」ハ二千回以下千五百回近キ方成績佳良ナルヲ認メタリ

同年度ニ於テ內地向着尺羽二重製織試驗ヲ行ヘリ　從來本縣當業者中本品ノ製織ニ從事スルモノ少カラズ其產額每年參拾萬圓ヲ下ラザレドモ其製品ハ越後羽二重ノ如ク佳良ナラズ隨テ利益少ク又販路擴張ノ望ナキカ爲メ當業者自ラ之レガ改良ヲ企ツルモノ多シト雖ドモ未ダ其製織法當ヲ得タルモノナキヲ以テ本場ハ之カ模範ヲ示サント欲シ卽チ五泉羽二重ノ製織法ニ模シ試驗セシナリ卽チ次ノ如シ

（原料）經絲十四「デニール」十二本合緯絲十四「デニール」十二本合（密度）筬一寸ニ付百枚經絲一目二十本通緯絲鯨一寸ニ付九十本（丈尺）巾一尺長六丈（量目）二百五十二匁目付二十五

又仝年度ニ於テ當業者ノ依賴ニテ毛絲「モスリン」及洋服芯地亞麻布製織試驗ヲ行ヘリ

明治四十一年度ニ於テハ輸出向壁織ヲ試織セリ本品ハ輸出品トシテ有望ナルモノヲ以テナリ

（原料）經緯糸共十四「デニール」（密度）筬一寸間八十枚經絲一目二本入緯絲一寸間百三十八本、壁絲ハ四本ト　本ニシテ下撚二「メートル」千百五十回上撚九百五十回（丈尺）巾一尺八寸長十二丈（量目）三百六十匁

右ノ外仝年度ニ於テ試驗セル梗概次ノ如シ

輸出向縮緬ノ試驗

（原料）經緯絲共十四「デニール」（密度）筬一寸間八十枚經絲一目二本通、緯絲一寸間百五十六本、縮緬緯ハ二本合セニテ左右ニ二「メートル」二千五百回ノ撚ヲ加フ（丈尺）巾一尺八寸長十二丈（量目）二百四匁

絹紡緯生「タフタ」ノ試驗

本品ハ安價ナル「タフタ」代用品ヲ得ルノ目的ヲ以テ試織センナリ

（原料）經絲十四「デニール」二本合セ、緯絲紡績絹糸八十番（密度）筬一寸間百〇五枚經糸一目三十本入、緯糸一寸間百二十本（丈尺）巾二尺長十二丈（量目）六百六十三匁

瓦斯緯生「タフタ」ノ試驗目的ハ前者ニ同シ

（原料）經絲十四「デニール」二本合セ、緯糸八十番「シルケット」（密度）筬一寸間百〇五枚經絲一羽三本入、緯絲一寸間百二十本（丈尺）巾二尺長十二丈（量目）六百八十匁

薄絹ノ試驗　本品ハ其後大ニ販路擴張シ年產額百萬圓ヲ算スルニ至レリ

（原料）經緯絲共十四「デニール」（密度）筬一寸間八十枚經絲一目二本入、緯絲一寸間百本（丈尺）巾一尺八寸長十二丈（量目）百十匁

明治四十二年度ニ於テハ輸出向輕目朱子ノ試織ヲナセリ本品ハ輸出向トシテ相當ノ聲價ヲ博シ主產地ハ山形縣下ナリ

（原料）經緯絲共十四「デニール」（密度）筬一寸間百二十枚經絲一目三本入、緯絲二本合セノモノ一寸間二百十本（組織）五枚朱子（丈尺）巾一尺九寸長十二丈（生量目）三百四匁

即チ六付余ニシテ製品ハ「バルメル」式仕上機ニテ整理セリ、其他仝年度ニ於テ試驗セルモノ左ノ如シ

福井「ボプラン」ナル織物ノ試驗　斯ハ經絲ハ純絹糸、緯絲ハ紡績絹糸ナルモ織製仕上後ノ味恰モ「ボプラン」織ニ髣髴タルヲ以テ斯ク命名セリ之ヲ市場ニ出スヤ大ニ嗜好ニ適シ直チニ多大ノ注文ヲ得當業者モ亦盛ニ之ヲ製織シタリ

（原料）經絲十四「デニール」二本合セ緯絲百三十五番紡績絹絲（密度）筬一寸間百枚經絲一目三本入、緯絲一寸間百三十二本（組織）平織（丈尺）巾二尺長十二丈五尺（生量目）六百五十二匁（整理）毛羽燒ヲナシ普通ノ如ク精練後過酸化曹達ニテ漂白シ「バルメル」式仕上機ニテ整理セリ

壁、羽、二重ノ試驗

（原料）經緯絲共十四「デニール」（密度）筬一寸間百十枚經絲二本合セノモノ一目二本入、緯絲一寸間百四十五本（丈尺）巾二尺五分長十二丈三尺（生量目）七百二十五匁、緯絲ノ壁絲ハ四本ト二本ノ抱キ合セニシテ下撚千三百回上撚千七十五回

羽、二重「モスリン」ノ試驗　本品ハ羽二重ト毛「モスリン」トヲ折衷セルモノニシテ經絲ニ純絹糸ヲ用ヰ緯糸ニ毛糸ヲ使用セルナリ後年ニ至リ「モスリン」暴騰ノ際本品モ大盛況ヲ來シ本縣並ニ福島縣下ニ於テ多大ノ生產ヲ見ルニ至レリ

）原料）經絲十四「デニール」生絲緯絲六十四番毛絲（密度）筬一寸間百枚經絲二本合セノモノ一日二本入、緯絲一寸間百四十五本（丈尺）巾一尺七寸、長九丈四尺（生量目）三百五十五匁

縞「シフオン」ノ手織機試織　斯ハ「シフオン」ノ如キ極薄地織物ヲ手織機ニテ製織スル際ニハ如何ニセハ織段ヲ防キ得ルカノ試驗ナリ此目的ヲ達スルニハ機台ニ「バツタン」止メ木ヲ裝置シ以テ打込ノ力ニ强弱アルモ常ニ「バツタン」ノ止マル位置ヲ制限シ織布ハ卷取機ニ依リ一定ノ長宛卷取ラハ可ナルモノト認メ斯樣ナル裝置ニヨリ全ク緯段ヲ防キ得ルヲ見タリ

明治四十三年度ニハ生甲斐絹ノ試織ヲナセリ　抑モ普通甲斐絹ハ練織物ナレドモ生織ニテ廉價ニ甲斐絹ヲ製

織シ以テ練糸製ノモノト同一ノ外觀同一ノ趣味ヲ附與センカ爲メ試ミタルナリ蓋シ練糸ト生織トハ製造工程ノ難易同日ノ論ニ非ス且ツ本縣當業者ハ生糸ノ取扱ヒニ於テハ充分ナル技能ヲ有スルモ練糸ノ取扱ヒニハ其經驗乏シキヲ以テ本試驗ヲ行ヒシナリ

(原料)經緯糸共十三「デニール」經糸三本合セ一「メートル」二百四十回ノ片撚糸緯糸四本合セ(密度)筬一寸間八十枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間二百三十本(丈尺)巾一尺長七丈(生量目)二百匁

製品ハ正ニ甲斐絹ノ味ヲ有シ同一目付ノ羽二重ニ比シ幾分手厚ノ感アリ而シテ其準備工程製織工程製織共ニ容易ナリ

洋傘地ノ試驗　本縣當業者ニシテ練糸製洋傘地ヲ製織スルモノ漸ク多キヲ加ヘシモ何レモ皆手織機ヲ用ヰ未ダ力織機ニテ製織スルモノナキガ故ニ其範ヲ示スベク試織セリ

(原料)經緯糸共十四「デニール」經糸二本諸撚緯糸二本片撚二本合セ、何レモ精練染色シテ用ヰタリ

(密度)筬一寸間百枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間二百本、(丈尺)巾一尺三寸五分長三丈(量目)九十匁(機台)佛國「デュードリッシ」會社製力織機

製織上更ニ困難ナク製品モ佳良ニシテ大ニ工費ヲ減少スルヲ得タリ幾何クモナク當業者某ハ京都田淵鐵工場製力織機二十台ヲ設備シ本織物ノ製織ヲ始メタリ

縞綾袖裏地ノ試驗　本品モ亦生織物ニシテ普通ノ練織製ニ比シ工費ヲ節減シ且ツ本縣當業者ニ適應セシムルノ目的ニテ製織セリ

(原料)經緯糸共十五「デニール」經糸四本合セ片撚、撚數一「メートル」ニ付二百四十回緯糸八本合セ

(密度)筬一寸間九十枚、經糸一羽二本入、緯糸一寸間百六十本(組織)$\frac{3}{1}$斜紋織(丈尺)巾一尺四寸、長七丈五尺(生量目)四百〇六匁

製品ハ練糸製ノモノト殆ト異ル所ナク製造工程ハ極メテ容易ナリ

經撚縮緬ノ試驗　普通縮緬ノ經糸ハ無撚ニシテ緯糸ニ左右ノ强撚ヲ施シタルモノヲ二杼宛交代ニ織リタルモノナリ故ニ本品ヲ力織機ニテ製造スルトセバ杼箱變換裝置ヲ附シタルモノナラザルベカラズ　本試驗ノ目的ハ斯クノ如キ特種ノ力織機ヲ使用セズ普通ノ羽二重用力織機ヲ以テ縮緬ヲ得ントスルニアリ即チ普通縮緬ノ經絲ト緯絲トヲ轉換シ經絲ニ左右ノ强撚絲ヲ二本宛配列シ緯絲ニ無撚ヲ用ヰタルナリ

(原料)經緯絲共十三「デニール」經絲二本合セ左右撚　撚數一「メートル」ニ付各々二千八百回、(撚止メ糊)水一升麥粉二十匁「フワリナ」四十匁　白蠟二匁(密度)筬一寸間七十枚、經絲一目二本通、緯絲二本合セノモノ一寸間百三十五本(丈尺)巾一尺三分長四丈(生量目)四十匁

製品ハ頗ル「フランス」縮緬ニ類似セリ工程ハ綾下ケニ幾分ノ困難ヲ感スルノ外他ニ何等ノ困難ナシ本品又盛ニ當業者ニ應用セラレ或ハ帛紗地ヲ製シ或ハ本品ノ地合ニ無撚絲ノ縞ヲ配シテ帶地等ヲ製織セリ

朱子壁織ノ試製　普通ノ輸出向朱子ノ設計ニテ緯絲ニ壁絲ヲ配シタルモノナリ

明治四十四年度ニ於テハ「タフタ」ヲ試織セリ本縣モ亦從來ノ如ク生織物ノミニ甘ンズベキニアラズ漸次練織物モ其手中ニ收メザルベカラザルヲ感シタレバナリ

(原料)經緯絲共十四「デニール」經絲二本諸撚、撚數一「メートル」ニ付上撚五百回下撚五百五十回緯絲五本片撚、撚數二百四十回、(密度)筬一寸間百枚、經絲一目三本入、緯絲一寸間百八十本　丈尺)巾一尺八寸七分、長六丈五尺(量目)二百八十二匁(整理)冷「カレンダー」ニ通シ裏糊シ「ダンピング」シ微熱「カレンダー」ニ通ス

本品ハ當業者ニヨリ盛ニ產出セラルヽニ至レリ

又縞朱子、絽縮緬、紗縮緬、襟地、撚絲羽二重等ヲ試織セリ　斯ハ富士絹若クハ東洋絹ノ名ヲ以テ市大正元年度ニ於テハ經緯絲共紡績絹絲ヲ用ヰル織物ノ試驗ヲナセリ

場ニ普及セルモノナリ時恰モ羽二重ノ不況甚タシカリシニヨリ當業者カ羽二重用力織機ヲ以テ直チニ製織シ得ルモノニシテ而カモ需要廣大ナル織物ヲ求ムルニ急ナルヲ以ラ本品ヲ試織シ其範ヲ示セリ

(原料)經絲紡績絹絲佛二百八十番、緯糸同二百十番(密度)筬一寸間六十枚、經糸一羽二本入、緯糸一

寸間百二十本(丈尺)巾一尺九寸、長十二丈(量目)五百七十匁

本品ハ當業者ニ依リ盛ニ製造セラレタリ

其他同年度ノ試織次ノ如シ

羽二重「モスリン」ノ試織　本品ハ己ニ前年ニ於テモ試織セルガ本年度ニ入リテ當業者ニ生産セラルヽモノ頗ル多ク漸次價格ヲ低下セシムル必要ヲ生セシヲ以ア幾分其ノ製造法ヲ變シテ試織セリ

(原料)經糸十五「デニール」一本經、緯糸毛糸六十四番單糸(密度)筬一寸間百枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百二拾五本(丈尺)巾一尺九寸五分　長拾二丈九尺(生量目)五百拾四匁

特種羽二重「モスリン」ノ試織　前記羽二重「モスリン」ハ一時大好況裡ニ數千台ノ力織機運轉セラレシガ幾何モナク粗製濫造ノ結果製織地ヲ拂フニ至レリ本品ハ此ノモノトハ撰ヲ異シ偶々本邦某輸入商館カ始メテ輸入シタル細毛糸百二十番單糸ヲ使用シテ精巧ナル絹毛交織布ヲ得ント欲シ製織シタルナリ

(原料)經糸十五「デニール」生糸一本經、緯糸毛糸百二十番單糸(密度)筬一寸間百五枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百五十本(丈尺)巾二尺一寸、長十二丈(量目)四百三十匁

製品ハ羽二重ニ似テ非「モスリン」ニ似テ非ナル一種ノ趣味アル織物ヲ得タリ

「リンネット」織物ノ試織　「リンネット」トハ綿糸ニ不溶解性糊ヲ施シテ「リンネン」ノ如キ性ヲ與ヘタル糸ナリ之ヲ使用シ安價ナル亞麻織物代用品ヲ得ント欲シ試織セルナリ

(原料)經緯糸共四十番「リンネット」(密度)筬一寸間百枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百五本(丈尺)巾九寸八分、長三丈二尺　(量目)百九匁

工程極メテ容易ニシテ經糸ニハ糊付ヲ要セス力織機ニテ製織シ得タリ製品ハ味硬直ニシテ正ニ麻性ヲ帶ヒ此ノ性質ハ加工等種々ノ操作ヲ經ルモ容易ニ消失セサルガ如シ本品ハ間モナク當業者ニ應用セラレ南洋向「サロン」布トシテ盛ニ製出セラルヽニ至レリ

摸造縞「シフオン」ノ試織　普通「シフオン」ノ地絲ハ經緯絲共强撚絲ナルヲ本品ハ無撚生絲ヲ代用シタルモノ

ナリ從テ製造上撚絲工程ヲ省略シ得ルカ故ニ價格頗ル廉ナルニ拘ハラス外觀ニ於テハ殆ンド本「シフオン」ト異ナルナシ唯ダ實用上ニ於テ絲ノ寄リ易キ缺点アルモ適當ナル整理法ヲ施サバ大ニ此ノ憂ヲ減シ得ルナリ宜ナルカナ本品一度市場ニ出ツルヤ忽チニシテ本「シフオン」ノ疊ヲ摩シ本「シフオン」ノ打擊少カラズ幾何ナラズシテ先進機業地ニ於テ本「シフオン」ヲ製造シツヽアルモノ却テ本縣ノ摸造「シフオン」ヲ摸スルニ至リ主客ヲ轉倒セシ觀アリシハ又以テ如何ニ本品カ時好ニ投シタルヤヲ知ルニ足ルベシ

大正二年度ニ於テハ兩面縞羽二重ヲ試織セリ斯ハ普通ノ縞羽二重ニ更ニ考案ヲ施シタルモノニシテ縞ノ組織ヲ兩面朱子トシ且ツ表面ニ現ハル、縞絲ト裏面ニ現ハル、縞絲トヲ異色トセリ故ニ織成セル織布ハ之ヲ表面ヨリ見ルト裏面ヨリ見ルトニヨリ全ク別種縞羽二重ノ觀アラシムルノミナラズ朱子組織ノタメニ其ノ縞極メテ鮮明タルナリ

其他同年度ニ於ケル試織左ノ如シ

手巾地ノ試織　斯ハ經絲ニ「リンネット」ヲ用ヰ緯絲ニ亞麻絲ヲ使用セリ

又經糸ニ紡績絹糸ヲ用ヒ緯糸ニ絹紡波糸ヲ使用セル窓掛用織布ヲ試織セリ

縞絹紡織試織　斯ハ縞富士絹トモ稱スベキモノニシテ後年當業者ニ依テ輸出向縞襯衣地トシテ盛ニ産出セラレタリ

(原料)紡績絹糸　經緯糸共英百二十番(密度)筬一寸間七十枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百三十本(丈尺)巾一尺二寸長六丈五尺(量目)三百八十六匁

絹紡柞蠶交織物ノ試織　斯ハ價格低廉ニシテ光澤ニ富ム裏地用生地ヲ得ントスルニアリ製品ハ地合光澤等尤モ適當セルヲ見ル

(原料)經糸紡績絹糸英二百番、經糸三十六「デニール」柞蠶糸二本合セ(密度)筬一寸間八十枚、緯糸一目二本入、緯糸一寸間百三十八本、(丈尺)巾一尺二分寸、長三丈一寸(量目)七十七匁

緯紡績絹糸ヲ用ヰタル洋服地ノ試織

（原料）經糸紡績絹糸百二十番、緯糸仝　六十番四本合セ（密度）筬一寸間八十枚、經糸一目三本入、緯糸一寸間六十六本（丈尺）巾二尺四分　長六丈一尺（量目）七百九十四匁

絹紡綿糸交織洋服地ノ試織

（原料）經糸紡績絹糸百二十番、緯糸綿糸六十番双糸三本合セ（密度）筬一寸間八十枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間六十本（丈尺）巾二尺四分、長六丈一尺（量目）八百八匁

羽二重用織機ヲ使用セル金巾ノ試織　織機ヲ如何ニ改造スルノ要アリヤ品位並ニ生産高如何等ヲ解決スルハ本試驗ノ目的ナリ而シテ製品々位ハ佳良ナリシカ綿用力織機ニ比シ回轉數モ遲キヲ以テ生産高少キヲ免レズ布卷ハ忽チニシテ直徑增大スルカ故ニ其ノ間接卷取ニ非ルモノハ改造ノ要アルベク又「テンプル」ノ設備ヲ要スルヲ認メタリ

又仝一目的ヲ以テ「クレープ」織及「ガーゼ」ヲ試織セリ

以上ノ内金巾及「クレープ」織ハ本縣ニテ盛ニ生産スルニ至レリ

大正三年度ニ於テハ再ヒ「フランス」縮緬ノ試織ヲ行ヒ各目付ノモノヲ製織シテ當業者ニ示シタリ蓋シ本品ハ輸出向織物トシテ頗ル需要ニ投シ近年商況活潑ナルモ其産地ハ京都群馬等先進機業地ニ限ラレ本縣未ダ生産者ナキヲ遺憾トシ其ノ製造ノ範ヲ示スト共ニ極力之カ鼓吹ニ勉メタリ幾何モナク當業者ノ某有志ハ本織物ノ製造ヲ企畫シ萬事本場ノ指導ヲ乞ヘリ然ルニ緯糸ノ强撚糸ハ未ダ本縣内ニ其製造所ナク本場設備ノ錘數僅少ニシテ到底多量ヲ生産シ能ハザルカ故ニ之カ供給ヲ先進機業地ニ仰キ力織機ハ本場備付ノ替杼付力織機ヲ用キ十數匹ノ試織ヲナシ市場ニ提供セルニ頗ル好評ヲ博セラヲ以テ仝人ハ直チニ從來ノ一丁杼力織機ヲ二丁杼力織機ニ改造シ盛ニ生産スルニ至レリ又本縮緬ノ精練仕上モ種々試驗ノ結果特種ノ方法ニ由テ施行シ好評ヲ博シツヽアリ次テ本品ノ製造者續出シ遂ニ本縣ノ重要ナル一物産タルニ至レリ

（原料）經緯糸共十四、五「デニール」經糸四本合セ、緯糸三本合セ左右撚撚數一「メートル」ニ付三千回（密度）一寸間八十枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百十六本（丈尺）巾一尺八寸長六丈二尺（量目）二百十

四匁

即チ約十一半付ノ縮緬ヲ得タリ

（原料）經緯糸共十四、五「デニール」經糸二本合セ、緯糸前者ト仝シ（密度）筬一寸間百枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百二十本、（丈尺）巾一尺八寸　長六丈二尺（量目）百五十八匁

即チ約八半付ノモノヲ得タリ

（原料）經緯糸共十四、五「デニール」經糸二本合、緯糸二本合セ左右撚撚數一「メートル」ニ付三千回（密度）筬一寸間百枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百五本（丈尺）巾一尺八寸長十二丈（量目）二百十二匁

即チ約六付ノモノヲ得タリ

又前者ト仝一目的ニテ絹縮ヲ試織セリ本織物ハ二丁杼裝置ノ要ナキカ故ニ前者ニ比シ製造極メテ簡易ナリ

（原料）經緯糸共十四、五「デニール」經糸二本合、緯糸三本合セ撚數一「メートル」ニ付二千二百二十回（密度）筬一寸間百二枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百十本（丈尺）巾一尺八寸長十二丈（量目）四百十四匁

即チ約十二匁付ノモノナリ

其他仝年度ニ於テ試織セルモノ次ノ如シ

「シフオンクロース」ノ試驗

（原料）經緯糸共十四「デニール」三本諸撚撚數一「メートル」ニ付千三百八十回上撚一千四百回（密度）筬一寸間百三十五枚、經糸一目一本入、緯糸一寸間百三十本（丈尺）巾一尺五寸長六丈（量目）百二十匁

絹紡柞蠶交織物ノ試驗　前年度ニ於テモ試織シタルコトアルモ今回ハ絹紬代用品トナスノ目的ニ出シナリ本品モ亦當業者ニ由テ盛ニ製織セラレタリ

（原料）經糸紡績絹糸英二百番、緯糸柞蠶糸（密度）筬一寸間八十枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百二十本（丈尺）巾一尺九寸五分長六丈（量目）二百七十三匁

瓦斯柞蠶交織物ノ試織　本試織ハ前者ニ比シ一層廉價ナル代用品ヲ得ルノ目的ナリ

（原料）經糸綿絲百番双糸緯糸柞蠶糸、（密度）筬一寸間八十枚、經糸一目二本入、緯糸一寸間百二十五本（丈尺）巾一尺八寸七分長六丈（量目）三百十一匁

練織黑朱子ノ試織

（原料）經緯糸共十五、五「デニール」經糸二本諸撚、緯糸四本片撚（密度）筬一寸間百二十五枚、經糸一目四本入、緯糸一寸間百二十三本（組織）八枚朱子（丈尺）巾一尺八寸　長六丈（量目）四百五十四匁（整理）

（イ）ボリサージ機ニテ緯搔キ　（ロ）熱「ロール」　（ハ）裏糊（水一升ニ付布海苔十八匁）　（ニ）給濕

（ホ）熱「ロール」

觀光朱子ノ試織

（原料）經糸十五、五「デニール」二本諸撚、緯糸六十番双糸　（密度）筬一寸間百二十五枚、經糸一目四本入、緯糸一寸間百本（丈尺）巾一尺八寸長六丈（量目）四百十匁　（整理）　（イ）「ボリサージ」機ニテ縦横摩擦　（ロ）毛羽機　（ハ）熱「ロール」ニ通ス　（ニ）裏糊（水三升五合ニ付片栗二百匁膠十五匁「デキストリン」七十五匁　蕨粉三十匁「モノポールオイル三匁」「グリセリン」二匁）　（ホ）給濕　（ヘ）熱「ロール」

其ノ他花色裏地、絹毛交織洋服地、甲斐絹、清國產絹糸ヲ用ヰタル縞羽二重、薄琥珀地等ヲ試織セリ

大正四年度ニ於テハ綿「シフォン」ヲ試織セリ

（原料）經緯糸共綿絲百番「シルケット」之ニ一「メートル」六百七十回ノ撚ヲ與フ（密度）筬一寸間八十枚經糸一目一本入、緯糸一寸間八十本（丈尺）巾一尺八寸長十二丈（量目）四百十匁

其他仝年度ノ試織次ノ如シ

絹紡緯糸朱子縞羽二重ノ試織　普通ノ朱子縞羽二重ノ緯糸ニ紡績絹糸ヲ使用シタルモノニシテ當業者ニ依リ盛ニ產出セラレタリ

（原料）經糸地糸十四、五「デニール」二本合セ、縞絲十四、五「デニール」三本片撚、緯糸絹紡英百三十五番、（密度）筬一寸間九十五枚、經糸地一目二本入縞一目五本入、緯糸一寸間百五十本（丈尺）巾二尺長六丈（量目）二百七十一匁

絹紬「ポンジー」ノ試織　本品ハ本邦ニテハ岐阜縣ヲ主產地トシ又清國ニ於テ盛ニ製造セラル經緯糸共柞蠶絲ヲ用ヰタル平地組織ノ織物ニシテ概ネ手織機ヲ以テ製織セラル、カ故ニ製品常ニ一定セズ工費モ廉ナラズ由テ本縣ニ普及セル羽二重力織機ヲ以テ製織ヲ企テタリ元來本織物ノ原料ハ撚糸ト無撚絲トノ二樣アレドモ茲ニハ撚糸ヲ用ヰテ試織セシニ製品々位良好ニシテ製造工程モ甚ダ困難ナラズ糊付ハ普通ノ羽二重式糊付ニテ可ナリ本品ハ爾來當業者ニ由テ盛ニ製出セラレツ、アリ

（原料）經緯絲共柞蠶絲三十六「デニール」二本合セ撚數一「メートル」ニ付二百四十四（密度）筬一寸間七十枚經糸一目二本入、緯糸一寸間百十本（丈尺）巾二尺二分長十二丈（量目）五百三十二匁

又綿絲及柞蠶糸ノ交織物ニ試織セリ

絹紡絹糸交織物ノ試織　從來經絲純絹絲ニシテ緯糸ニ絹紡ヲ使用セルモノハ本縣ニ於テ多數ノ生產アリシモ經絲ニ絹紡ヲ用ヰ緯絲ニ純絹絲ヲ使用セルモノハ多ク之ヲ見ズ依テ之ヲ試織セルニ在來品ト全ク趣ヲ異ニシ外觀味等頗ル普通羽二重ニ近似セリ本品モ亦當業者ニ依リ盛ニ製出セラレタリ

（原料）經絲絹紡英百三十五番、緯絲十四「デニール」四本合セ（密度）筬一寸間百枚、經糸一目二本入、緯絲一寸間百四十五本（丈尺）巾一尺八寸長十二尺（量目）六百三十匁

輸出向甲斐絹ノ試織

（原料）經絲十四「デニール」二本諸撚下撚六百回上撚五百五十回、緯絲十四「デニール」三本片撚二百四十回（密度）筬一寸間八十枚、經絲一目二本入、緯絲一寸間百四十五本（丈尺）巾一尺九寸長十二丈（量目）三百三十一匁

其ノ他絹毛交織婦人袴地、琥珀織、黑朱子、仝綾地、「セル」綿朱子等ヲ試織セリ

大正五年度ニ於テハ黃絹絲生絲カ羽二重ニ使用セラレサリシハ蓋シ精練後ニ於テモ僅カノ色相ヲ殘存スルヲ以テナリ然レドモ斯ル少許ノ色相ハ染色上何等ノ支障アルナク寧ロ或場合ニ

ハ染色ヲ補助スルコトアルヘク其他手觸リ、滑軟、光澤、程度等普通白絹絲ニ比シ勝ルノ得点アルヲ以テ必スシモ羽二重ニ應用スル能ハサルノ理ナキヲ信シ之ヲ製織シ需要者ノ批評ヲ求メタリ

（原料）經絲黄絹絲十四、五「デニール」二本合セ緯絲黄絲十三「デニール」三丈合セ（密度）筬一寸間百枚經糸一目二本入、緯糸一寸間百八十本（丈尺）巾一尺八寸三分、長十二丈（量目）三百十匁

製品ニ付テ見ルニ手觸リ滑軟、光澤優良ナリ唯ダ少許ノ黄味ヲ殘存ス製造工程ハ極メテ容易ニシテ經糸ハ普通ノ如ク二度糊付ヲ行ヒタルニ經糸ノ切斷頗ル少キガ故ニ次ニ一度糊付ニテ製織セルモ依然トシテ切斷少キヲ以テ更ニ全然糊付ヲ施サズシテ施行セシニ尚且ツ容易ニ製織スルヲ得タリ故ニ本原料ヲ使用スルトキハ全ク糊付工程ヲ廢シ得ルカ若シクハ少クトモ一度糊付ヲ以テ足レリトス又強力大ナルヲ以テ生産高ヲ増シ屑糸量ヲ生スルコトモ少シト信ス唯練減ハ幾分大ナルカ如シ

又仝原糸ヲ用キテ「フランス」縮緬ヲ試織セリ目的ハ前者ト仝シ

（原料）經糸黄絹糸十三「デニール」二本合セ、緯絲黄絹絲十三「デニール」三本合セ、撚數二「メートル」左右共三千二百回（密度）筬一寸間百枚、經絲一目二本入、緯絲一寸間百二十五本（丈尺）巾二尺四寸、長十二丈（量目）三百九匁

本品ハ一層黄絹絲ノ特色タル觸感光澤ヲ發揮セリ前者ト同シク海外ニ送リ需要者ノ批評ヲ求メツヽアリ

其ノ他同年度ノ試織次ノ如シ

絹綿交織縞襯衣地ノ試織

（原料）經絲百二十番、百番、八十番ノ「シルケット」緯絲黄絹絲十四デニル三本合セ、撚數一「メートル二百四十回（密度）筬一寸間九十五枚、經絲一目二本入、緯絲一寸間百三十本（丈尺）巾二尺長十二丈一尺（量目）七百七十七匁

撚羽二重ノ試織　前年度ニ於テモ既コ試織セルカ更ニ續行セルナリ原料並ニ設計ハ羽二重ト仝一ニシテ唯經緯ニ撚絲ヲ用キテ試織シ如何ナル風味ノモノヲ得ベキカヲ知ラントスルニアリ

（原料）經緯絲共十四、五「デニール」二本片撚撚數一「メートル」千回（密度）筬一寸間百枚、經絲一目二本入、緯絲一寸間百九十二本（丈尺）巾一尺八寸長十四丈二尺（量目）三百五十二匁

製品ハ稍々甲斐絹ニ類スルモノヲ得タリ製職工程ハ糊付ヲ一度糊ニテ施行セリ

「ジョーセット」縮緬ノ試織　本品ハ經緯絲共左右ノ強撚絲ヲ施シタルモノヲ二本宛交互ニ配列シタルモノニシテ米國ニ於ケル最新ノ流行品ナリト聞ク本塲其範ヲ示スヤ直ニ當業者ノ製出スル所トナレリ

（原料）經緯絲共十四、五「デニール」二本合セ左右撚一「メートル」ニ付三千二百回（密度）筬一寸間七十五枚、經絲一目二本入、緯絲一寸間百四十五本（丈尺）巾一尺八寸長六丈（量目）百二十八匁

微前者ト同一品ヲ黄絹絲ヲ以テ試織シタルニ製品ハ眞ニ黄絹絲ノ有スル特色ヲ發揮シ一種云フベカラザル妙ノ觸感ヲ呈セリ

薄絹ノ試織　近時本縣ニ產スル薄絹ハ粗製濫造ニ流ル、ヲ以テ本塲ハ理想ノ薄絹ヲ製織セシナリ

（原料）經緯絲共十二「デニール」一本（密度）筬一寸間百枚、經絲一目二本入、緯絲一寸間百六十本（丈尺）巾一尺八寸長十二丈（量目）九十七匁

製品ハ約二匁七分付ノ輕目ナルニ拘ハラズ密度大ナルヲ以テ普通ノ薄絹ノ如ク絲ノ寄ル等ノ欠点ヲ認メズ

輸出向絽縮緬試驗　本試驗ノ目的ハ現今盛ニ製出セラレツヽアル「フランス」縮緬ノ變化織物ヲ得ント欲スルニアリ

（原料）經緯絲共十四「デニール」經絲二本合セ、緯絲三本撚撚數一「メートル」左右共三千二百回（密度）筬一寸間八十枚、經絲一目二本入、緯糸一寸間百十五本、（丈尺）巾一尺八寸長六丈七尺（量目）百四十五匁

本品試織ニ當テハ本塲ニ於テ考案セル特殊ノ綟子綜絖並ニ両口「ドビー」ヲ用キ單ニ製品ニ關スルノミナラズ其新規ナル機構、裝置ニ付テモ範ヲ示シタリ

其他「リボン」用「シフォン」、黄絹糸白絹絲交織羽二重、仝上縮緬、綿「シフォン」、輸出向觀光縮緬等ヲ試織セリ

撚糸ニ關スル試驗

三十九年度ニ於テ本場ハ東京佐野鐵工場製米國式撚糸機下撚機百十二錘立二台、上撚機九十二錘立一台、「ワインダー」六十四窓付一台、「ダブリング」六十四窓付一台、揚返機一臺（此ノ價格合計二千八百十六圓六十一錢）ヲ設備シ撚糸ニ關スル試驗ヲ開始セリ

從來本縣ハ白地羽二重ノミヲ產セシガ近時縞羽二重傘地等撚糸ヲ要スル織物ノ需要起リタレトモ縣下ニハ一ツノ撚糸工場ナク隨テ悉ク京都或ハ名古屋地方ヨリ之カ供給ヲ仰カサルベカラズ之レ獨リ經濟上及操業上ノ不利不便ナルノミナラズ斯業ノ發達ニ影響スル所尠カラズ本場備付ノ錘數ハ固ヨリ悉ク其ノ需要ヲ充ス能ハサルモ將來當場ニ於ケル撚糸織物ニ關スル試驗ニ向ヒテ多大ノ便宜ヲ得ルト共ニ當業者ノ依賴ニ應シ其ノ研究及發達ニ資スル所アランコトヲ期シ之カ設備ヲ敢テセシナリ

四十年度ニ於テハ無地「シフオン」並ニ縞「シフオン」用原糸ノ撚糸並ニ撚止メニ關シ試驗ヲ施行セリ其結果無地「シフオン」用原糸ニハ撚數一「メートル」ニ付二千五百回乃至三千回又縞「シフオン」用原糸ニハ千五百回乃至二千回位ヲ以テ適當ト認メ其撚止メニハ水一升「フワリナ」四十匁麥粉二十匁白蠟二匁ノ調合ヨリ成ル糊ニテ糊付シタルニ完全ニ撚止メノ効ヲ奏セリ

四十一年度ニ於テハ輸出向壁織並ニ縮緬ニ適スル撚糸ノ試驗、四十二年度ニハ朱子撚、四十三年度ニハ「タフタ」撚、四十四年度ニハ內地向縮緬撚、大正二年度ニハ柞蠶撚絲、大正三年度ニハ「シフオンクロース」ノ撚、及甲斐絹ノ撚、仝年四年度ニハ綿「シフオン」ノ撚、綿「クレープ」ノ撚等ノ試驗ヲ施行セリ其間當業者ヨリ撚絲ノ依賴アル毎ニ勉メテ其要求ニ應シタリ

以上ノ如クニシテ撚絲業モ漸ク本縣當業者ノ注目スル所トナリ八丁式撚絲機ニテ撚絲ノ賃業ヲナスモノ數戸ヲ出シ四十三年度ニ入リ京都市在日本撚絲株式會社ハ當市ニ分工場ヲ設置シ佛國式撚絲機械總錘數三千六百四十八錘ヲ備ヘ賃業ヲ爲スニ至レリ爾來織物ハ漸次發達ノ趨勢ヲ持續シ從テ撚絲ノ需要益々加ハリ遂ニ大正五年度ニハ本縣機業者商業者ノ發起ニ由テ撚絲染工株式會社ハ設立セラレ先ツ伊太利式撚絲機五千錘ヲ設備シテ事業ヲ開始ス設計萬端本場ノ力ヲ致セシ所ナリ本縣撚絲業ノ前途ヤ有望ナルト云フベシ

染色仕上ニ關スル試驗

明治三十八年度ニ於テハ　木綿紺染試驗ヲ施行セリ抑縣下丹生郡產石田縞ハ從來年產額參拾萬圓ヲ算セシニ粗製濫造ノ結果約拾萬圓ニ低下セリ其原因ハ主トシテ染色ノ不完全ニ因ルガ故ニ本場ハ之カ改良ヲナスベク本試驗ヲナシ其結果最モ良好ナルモノヲ選ヒ當業者ニ指導シタルニ僅カニ數ケ月ニシテ大部分ノ染色改良セラル爾來失墜シタル聲價ヲ恢復スルコトヲ得タリ而シテ該方法ハ藍ニテ下染ヲナシテ後硫化染料ニテ煮染ヲ行ヒタリモノナリ

明治四十四年度ニ於テハ本場ニ「バルメル」式羽二重仕上機ノ設備成リシヲ以テ輸出向染羽二重ノ染色並ニ仕上ニ關シ試驗セリ

明治四十二年度ニ於テハ各種內地向織物ニ關スル染色並ニ仕上ニ關シ試驗ヲ施行セリ

從來本場ノ依賴加工ハ繰糸、撚絲、整經、綜絖製織等ニ限ラレシガ本年度ニ至リ仕上設備モ略ボ完成スルニ至リシカハ各種織物整理ノ依賴ニモ應スルコトヽナレリ

明治四十三年度ニ於テハ當業者ノ仕上試驗依賴ヲ爲スモノ益々多ク偶々本縣內地織物業發展ノ機運ハ縣內ニ民營整理事業ヲ起スベク輿論ヲ喚起シ遂ニ內地織物生產組合ヲ設立セラレ農商務省又深ク此ノ擧ヲ贊シ獨逸國「ナツタウ」機械製造會社製裏糊乾燥機ヲ仝組合ニ貸與シ組合又各種仕上機械ヲ購求シ尙ホ不足ヲ告グル所ハ本場備付ノ整理機ヲ利用シ各種織物染色仕上事業ヲ遂行スルニ至レリ此ノ間ニ處シテ本場ハ終始仝組合ノ顧問トナリ機械ノ撰擇購入先ノ撰定設計据付技師ノ聘用等悉ク皆本場ノ指導セシ所ナリ

明治四十四年度ニ於テ本場ハ仕上專門ノ技術者ヲ雇傭シ生產組合ノ顧問技術者タラシメ大ニ染色整理ノ發達ニ努力セシメタリ

大正元年度以降ニ於テハ本縣內ニ綿「サロン」、朱子縞羽二重、模造「シフオン」甲斐絹、黑朱子、縞絹紡績、

縞柞蠶織、縞縮緬等各種ノ染色應用織物續出セルヲ以テ本場ハ常ニ其等ニ適應スル各種ノ染色整理試驗ヲ施セリ

各方面ヨリ依頼ニヨル試驗

明治三十八年度ニ於テハ陸軍省囑託經氣球用材料試驗ヲ施行セリ　斯ハ經絲ニ生絲ヲ緯絲ニ紡績絹絲ヲ使用シ佛國製輕氣球材料ニ準シ製織シ織上ノ儘陸軍省ニ納付セリ然ルニ同省ニテ種々試驗ノ結果密度ハ適當ナルモ之レニ塗布スル「ゴム」ノ吸收木綿製品ノ如クナラズ隨テ摩擦ニ充分ナラザルコトヲ發見セシヲ以テ木綿品製ノ方適當ナル事ヲ認ムル旨ノ回答ヲ得タリ

明治三十九年度ニ於テハ東京蠶業講習所囑託異種製絲法ニ成ル生絲ノ織物ニ及ス試驗ヲ施行セリ　即チ普通ノ方法ニヨリ製絲セル絲(甲)ト繰絲湯ノ温度ヲ低クシ繰絲ノ速力ヲ極メテ遲クシタルモノ(乙)ヲ各別々ニ經絲トシ普通ノ方法ニヨリ製絲シタル絲(丙)ヲ両者共通ノ緯絲トシテ六半付羽二重ヲ試織シ繰返機、合絲機、糊付機、整經機、力織機、等各工程中ニ於ケル差異ヲ比較研究シタルモノナルガ両者著シキ差異ヲ認メザリキ

明治四十年度ニ於テハ本縣廳ノ依頼ニヨリ薄絹「ロール」掛適否試驗ヲ又練業者ヨリ依頼ニヨリ羽二重汚点除去試驗ヲ又機業者ヨリノ依頼ニヨリ洋服心地亞麻布製織試驗ヲ施行セリ

明治四十一年度ニ於テハ當業者ノ依頼ニ依リ絹紡緯羽二重製織試驗、縞「モスリン」製織試驗内地製力織機ニ内地製「ドビー」應用試驗、旭式力織機使用試驗、双踏「ドビー」使用試驗ヲ施行セリ

明治四十二年度ニ於テハ畏クモ東　宮殿下北陸三縣行啓ノ盛事アリシガ爲メ各官廳ヨリ神聖ナルベキ献納品技巧ヲ要スル裝飾品等製作ノ依頼ヲ受ケタリ即チ福井縣廳依献上紋羽二重同上献上平羽二重同上献上品被包用重目羽二重福井縣廳並ニ赤十字社福井支部依頼裝飾窓掛地、福井市役所依頼献上重目羽二重等ニシテ之ヲ謹製シ何レモ依頼者ノ滿足ヲ得タリ又當業者ノ依頼ニヨリ縮緬手織機(二丁杼)使用試驗「シフォン」ノ手織機製織試驗ヲ施行セリ

明治四十三年度ニ於テハ當業者ノ依頼ニヨリ搗織物ノ試織及綾織ノ試織ヲナセリ又横濱生絲檢査所ノ依頼ニヨリ關西「エキストラ」ト關東「エキストラ」トノ比較試驗ヲ行ヘリ

明治四十四年度ニ於テハ當業者ノ依頼ニヨリ縞朱子試織内地向絹縮緬製織試驗、櫻糊使用試驗、粉末布海苔使用試驗、糊料「アドラヂン」使用試驗、福田式防水劑効力試驗、宇野式二丁杼力織機使用試驗ヲ施行セリ又本縣羽二重檢査所ノ依頼ニヨル事故羽二重ヲ試織セリ斯ハ同所カ日常檢査上ニ現ハル、各種ノ事故欠点ヲ一羽二重中ニ故意ニ現出セシメ之ヲ一般機業關係者ニ示シ各種事故品ノ原因結果ヲ一目瞭然タラシメントスルモノニシテ實ニ斯業關係者ノ好參考品タルヲ失ハズ而シテ事故種類ハ瑕疵、汚染、胴切、杼間、スクヒ、チカ、寄リ、引ケ、經切、經ユルミ、經ツリ、サビ、穴、墨油インキ濕等ノ汚染其他一切ノ欠点ヲ網羅セリ又横濱生絲檢査所ノ依頼ニヨリ内外各種生絲製織比較試驗ヲ施行セリ　本試驗ハ產地並ニ種族ヲ異ニセル各種ノ蠶絲ガ製造工程上ニ及ス利害得失及ヒ製品々位ニ及ス差等ニ付比較ヲナスノ目的ヲ以テ爲シタルモノニシテ白地琥珀、黑地琥珀等ヲ試驗セリ偶々農商務省ヨリモ同一目的ヲ以テ佛國、伊國、本邦產絲比較試驗ヲ本場ニ屬託セラレタリ

大正元年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續セル農商務省囑託各國生糸比較試驗ヲ完成セリ　本試驗ニ於テハ原料トシテ佛國產、伊國產、本邦產ノ三種ヲ使用シ略同一ナル織度及略同樣ナル品質ヲ撰ヒ同一條件ノ下ニ輕目羽二重、重目羽二重、輕目縞「タフタ」、重目縞「タフタ」、輕目縞朱子、重目縞朱子、輕目無地朱子、重目無地朱子等ヲ試織シ之カ原料ノ檢査成績、撚糸、精練染色、製織及整理ノ諸工程中ニ於ケル差異等ヲ仔細ニ比較考究シタルニ次ノ如キ結果ヲ得タリ

原料ニ於ケル纖度ノ差ハ佛國產最モ少ク本邦產之ニ次キ伊國產最モ大ナリ從テ製織品殊ニ羽二重ニ就テ見ルモ佛國產縱筋最モ少ク本邦產之レニ次キ伊國產最多シ　類節ハ佛國產最モ少ク伊國產之ニ次キ本邦產ハ遙カニ多キヲ見ル　强力ハ本邦產最モ大ニシテ佛國產之ニ次キ伊國產ハ最モ少ナルモ其ノ大小不同ノ差ハ本邦產最モ甚タシク伊國產之レニ次キ佛國產最モ少シ伸力ハ佛國產最モ大ニシテ且ツ其ノ不同ノ差最モ少ク伊國產

之ニ次キ本邦産ハ伸力最モ小ニシテ且ツ不同ノ左最モ大ナリ

繰返工程ニ於テハ佛、伊國産ハ枠角ノ固着甚タシク解舒ニ頗ル不便ヲ感セシモ本邦産ハ此ノ憂ヒナカリキ

撚絲工程ニ於テハ伊國産特ニ優良ノ成績ヲ示シ本邦産ト佛國産トハ略ホ相似タリ撚糸後ノ操作ニ於テハ佛國産最モ佳良ニ伊國産之ニ次キ本邦産最モ劣レリ

精練工程ニ於テハ本邦産短時間ニ精練セラレ且ツ練減程度モ少シ佛、伊、國産ハ長時間ヲ要シ練減程度モ亦遙カニ多シ此ノ結果ハ絲トシテ精練ノ際ニモ布トシテ精練ノ際ニモ同様ニ現ハレタリ　精練後ノ色澤ニ於テハ殊ニ著シキ差異ヲ示セリ卽チ佛、伊、國産ハ黄色ヲ帶ヒ充分ナル漂白工程ヲ施スニ非レバ純白ノ程度ニ達シ難ク本邦産ハ唯精練工程ノミニテ純白ト稱シ得ル程度ニ達セリ染色工程ニ於テハ本邦産ハ染料吸收ノ度强キカ如ク從テ比較的濃厚ニ染色セラレ佛、伊、國産ハ之レニ反スルノ傾アリ又佛、伊、國産ハ自已ノ有スル天然色カ色相ノ上ニ影響スルヲ免レサルベク本邦産ニ在テハ此ノ憂更ニ無シ　製織工程中切斷數ノ最モ少カリシハ本邦産ニシテ佛國産之レニ次キ伊國産其數最モ大ナリ製織品ニ就テ見ルニ縱筋ハ原糸纖度ノ差ニ比例シテ佛國産最モ少ク本邦産之ニ次キ伊國産最モ甚ダシ

光澤ハ佛、伊國産何レモ佳良ニシテ本邦産幾分劣ルガ如ク味又佛、伊國産ハ頗ル滑軟ニシテ快感ヲ覺ヱ本邦産ハ比較的粗硬ノ氣味アリ白ハ本邦産純白ナルモ佛、伊、國産ハ普通ノ漂白工程ヲ施ストモ尙淡黄色ヲ殘スヲ見色相ハ前述ノ如ク本邦産ハ比較的濃厚ニ染着シ佛、伊、産ハ聊カ薄ク且ツ固有ノ色相ノ影響セルヲ認ム

整理工程ニ於テハ各國産其格段ナル差異ヲ認メス整理後ニ於テモ前記製織品ニ就テ述タル諸点ヲ明ニ現出セルモ羽二重ニ於ケル如ク著シカラズ

以上列擧セル成績ノ優劣ヲ總括スルニ多クノ點ニ優位ヲ占ムルハ佛國産ニシテ之ニ次グヲ本邦産トシ伊國産ハ最モ劣レリ依テ今試ミニ佛國産ト本邦産トノ主要點ヲ相互比較スルニ原料ニ於テ佛國産ハ纖度ノ差少ク類節少ク伸力大ニシテ其ノ大小ノ差少ク本邦産ハ以上ノ各項凡テ劣レリ唯ダ强力ニ於テ幾分優レルノミナリ而シテ其ノ大小不同ノ差ハ又本邦産ノ劣ル所ナリ原料ノ優劣ハ製織品ノ上ニモ現ハレ卽チ佛國産ハ縱筋極メテ

少ク本邦産ハ比較的多シ　精練ニ於テハ本邦産著ク優レルヲ見ルナリ卽チ比較的短時間ニテ精練セラレ練減程度少ク純白色ナルハ殊ニ喜ブベシ佛國産ハ此ノ凡テノ點ニ於テ劣者ノ地位ニ在リ精練後ノ糸及ヒ織布ニ就テ見ルニ光澤、手觸リ、味ノ點ニ於テハ佛國産ヲ優等トシ白及染色後ノ色相ニ於テハ本邦産ヲ優等トス

本試驗ノ結果ハ概ネ上述ノ如シ然ルニ最初本試驗ニ着手スルニ當リテ最モ困難ヲ感セシハ如何ニセバ比較的正確ナル成績ヲ擧ケ得ベキヤノ點ニ在リ卽チ原料タル日、佛、伊三國ニ於ケル生絲ノ種類ハ頗ル複雜ニシテ隨テ各階級ノ原料ヲ採リテ悉ク比較試驗ヲ行フコトハ容易ノ業ニ非ラス依テ各國ヲ代表スベキモノニシテ且ツ同一階級ニ屬スルモノヲ愼重ニ撰定シ之ガ比較試驗ヲ施行セバ其ノ成績ニ於テモ比較的正確ヲ期シ得ベキヲ信ジ玆ニ原料ノ撰擇ハ以上ノ方法ヲ遂行スルニ最モ適當ナル國立横濱生絲檢査所ニ依賴シ總テ其指揮ニ待チ勉メテ同等ナル各二種類宛ノ原料ヲ得テ之レガ試驗ヲ了シタルモノナリ此ノ結果ヲ以テ直チニ多種多樣ナル各國産生絲ノ總テヲ批評シ難キモ之レニ依リ其大勢ヲ知ルヲ得バ本試驗モ亦決シテ徒勞ニ非ルベシ

其他當業者ノ依賴ニ依リ糊料經糊石鹼使用試驗、關口式足踏機械使用試驗ヲ施行セリ

大正二年度ニ於テハ當業者ノ依賴ニヨリ「タフタ」製織試驗、綿手巾地友鹽瀨羽二重ノ製織試驗、椿水使用試驗等ヲ施行セリ

大正三年度ニ於テハ當業者ノ依賴ニヨリ縮緬節絹代用織物「シフオンクロース」薄琥珀、淸國産生糸縛羽二重等ヲ試織セリ

又本縣廳ノ依賴ニヨリ窓掛地ヲ製造セリ　斯ハ本場ニテ製織シタル布地ニ更ニ本場設備ノ刺繡機械ニヨリ紋樣ヲ刺繡シタルモノナリ

大正四年度ニ於テハ當業者ノ依賴ニヨリ綿「シフオン」絹紡緯朱子、縞羽二重、甲斐絹、綿朱子等ノ製織試驗及今泉式綿用力織機ノ使用試驗ヲ施行セリ

其他同年度ノ試驗次ノ如シ

當地法曹社會ノ依賴ニヨリ法官服ノ製織並ニ刺繡ヲナセリ

本縣坂井郡役所ノ依頼ニヨリ紋織幕地ヲ製織セリ　斯ハ同郡ニ於テ　今上陛下御即位御大典記念トシテ管下一般ノ小學校ニ奉戴セル　御眞影前ニ張ルベキ幕ヲ新調スルニ一決シ之ガ製織圖案等一切ヲ本場ニ託セラレタルモノナリ

本縣ヨリ御大典奉祝ノ誠意ヲ表スベク奉獻スヘキ織物ノ謹製ヲ本縣廳ヨリ命セラレ謹テ之ニ從事セリ先ツ原料ヲ精撰シテ壁織物二百「ヤール」ヲ謹織シ次テ本場備付ノ刺繍機械ニテ刺繍紋樣ヲ現出セルモノナルカ本年度ニハ未ダ完成シ得ザリキ

大正五年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續セル奉献織物ノ謹製ニ從事シ之ヲ完成セリ

尙本縣廳ノ依頼ニヨリ赤十字社總裁宮殿下ニ献上スヘキ羽二重ヲ謹製セリ

其他某伯ノ依頼ニ依リ依絹糸ヲ原料トセル内地向羽二重又當業者ノ依頼ニ依リ「リボン」用「シフオン」薄絹「タフタ」、綿繻子、綾織等ヲ試織セリ

刺繍機ノ應用

大正二年度ニ於テ本場ハ國庫補助費ヲ以テ獨逸國「ケムニツツカツベル」製作所製手働刺繍機械（價格金壹千五百七拾圓）ヲ購入ノ議決シ之ヲ注文シ翌三年度ニ至リテ着荷シ直ニ場内ニ据付タリ蓋シ此種型ノ刺繍機トシテハ本邦ニ輸入セラレタル嚆矢ナリトス今本機ノ構造ヲ略説センニ刺繍セラルヘキ布帛ハ上下二段ニ張リ得ラル、裝置ニシテ之ニ配置セラレタル刺繍針ハ其ノ數三百三十六本各針ノ距離ハ二拾七「ミリメートル」ナリ故ニ二十七「ミリメートル以内」ノ大サノ模樣ナラバ同時ニ三百三十六模樣ヲ刺繍シ得ベク漸次模樣ノ大トナルニ從テ針數ヲ省略セハ可ナルモノニシテ實用上最大限度ハ二百四十「ミリメートル」ナリ本機械ヲ使用スニハ模樣「テーブル」上ニ意匠紙ヲ置キ該意匠紙ニハ豫メ刺繍セントスル模樣ヲ六倍大ニ描キ機ノ針端ルヲ模樣ノ輪廓ニ沿ヒツ、動ストキハ布帛ハ意匠紙ノ模樣ノ如クリ動キ一方ニ「ハンドル」ヲ廻轉スレバ刺繍針ハ布帛ヲ通シテ往復シ以テ刺繍模樣ヲ現出スルナリ尙ホ本機ニハ模樣ヲ切抜クヘキ又物ヲ有スル器具並ニ小形ノ孔ヲ穿ツヘク錐ヲ有スル器具ヲ附屬シ以テ任意ノ形狀ニ布帛ヲ切リ拔キ又ハ小孔ヲ穿チ其ノ周圍ノ縫ヒカヽリ等ヲ爲スコトヲ得ルナリ

本機据付ノ當初ハ專ラ從業者技術ノ修得ニ勉メ各種刺繍ノ練習ヲナサシメンガ爲「ネクタイ」地、半襟地ニ刺繍ヲ試ミ次テ染羽二重ニ各種ノ刺繍ヲ施シテ之ヲ輸出商館ニ送リ漸ク技能ノ習熟スルニ及デ本縣廳依賴ノ窓掛地ヲ刺繍セリ

大正四年度ヨリ大正五年度ニ至ル間ハ從事者ノ技術モ亦一層進ミタレハ本縣ヨリ奉献スヘキ窓掛地ノ謹製努力シ爾來横濱ナル某輸出商ヨリ絶エス注文ノ刺繍品ヲ製作シツ、アリ

職工研究生ノ養成

明治三十六年度即チ本場事業開始ノ當初ハ勿論縣内ニハ本場備付ノ諸機械取扱ニ習熟セル職工ナク何レモ皆初心ノモノヲ採用シ技術ヲ習熟セシメ機械工女モ亦力織機操縱ノ經驗アルモノナキヲ以テ專其養成ニ勉メタルナリ

仝年度中縣内當業者ノ子弟ニシテ相當ノ學力ヲ有シ本場ノ事業ヲ習得セント欲スルモノハ研究生トシテ入場スルコトヲ得ルノ制ニ依リ入場シテ技術ヲ習得セルモノ四名アリタリ

明治三十七年度仝三十八年度ニ於テハ本場經費ノ許ス限リ多數ノ職工ヲ雇傭シ專ラ之ガ技術ノ向上ニ勉メ以テ本場製品ノ優良ヲ計ルノミナラス又他日ノ用ヲ期セリ

明治三十九年度ニ於テ力織機工場勃興スルヤ本場ハ兼テ期シタル事トテ當業者ノ依賴ニ應シ業務ニ差支ナキ限リ本場職工ヲ摸範職工トシテ供給シタリ

明治四十年度ニ於テハ力織機工場ノ增設相次キ本場ノ職工ヲ要求スルモノ隨テ多シ此間ニ處シ本場ハ多少ノ不便ヲ忍ヒテ當業者ノ希望ヲ充シ職工ノ去ルニ從テ新入者ヲ以テ補ヒ之ガ技術ノ練習ニ勉メ殆ンド職工養成所ノ觀アリキ仝年度ニ於テ研究生タルモノ六名ナリ

明治四十一年度モ前年度ト同一狀態ナリキ茲歳ノ研究生ハ一名ナリ

明治四十二年度ニ於テハ從來ノ職工、研究生養成ノ外女子ノ織物技術者養成ノ手段ヲ採リタリ　斯ハ將來ノ機業家主婦又ハ女工監督者タルモノヲ得ントスルニアリテ入場者資格ヲ高等小學校卒業以上ノ學力ヲ有スルモノニ限リ一週三時間ノ機織法講義六時間ノ織物分解ヲ講スルノ外實習ハ凡テ本場職工ト全ク同一ニ作業セシメ滿一ケ年ヲ以テ修了セシムルコトトセリ本年度ニ入場ヲ許可セルモノ三名ニシテ普通ノ研究生ハ五名ナリ

明治四十三年度ニ於テハ前記職工養成ノ外普通研究生十八名女子特別研究生三名、明治四十四年度ニ前記職工養成ノ外研究十名、大正元年度ハ研究生十二名、大正二年度ニハ研究生八名、大正三年度ニハ研究生七名

大正四年度ニ於テハ研究生五名ヲ出シタリ

又從來本場ニ於テ精練作業ニ從事セシ職工二名ヲ本場ニ於テ研究シタル精練方法ト共ニ本縣精練會社ニ供給シタリ

大正五年度ニ於テ研究生タルモノ六名ナリ

當業者トノ聯絡並ニ實地指導、質疑鑑定、分折等

由來本場ノ如キ斯業奬勵機關ハ關係諸機關並ニ當業者ト常ニ密接ナル關係ヲ持續スルニ非レバ到底其ノ効果ヲ擧グルヲ得ザルカ故ニ本場ハ常ニ此等諸機關ト聯絡ヲ保チ又實地指導ヲナスニ付テハ最上ノ努力ヲ惜マザリキ幸ニシテ其親密ノ度ハ日ニ月ニ加ハリツツアルハ最モ慶賀スル所ナリ

本場創立ヨリ明治三十八年度ニ至ルノ間ハ本場ガ地方營業者トノ聯絡ニ向ヒ勉メテ意ヲ用ヰタル點少キニアラザリシト雖モ一ハ場内ノ設備整ハザリシト一ハ時期未ダ至ラザルノ故カ密接ナル關係ヲ有スルコト能ハサリシハ遺憾トセシ所ナリ

仝年度ニ於テ本場長ハ福井商業會議所特別議員ヲ命セラレタリ

明治三十九年度ニ至リテハ本場ノ設備漸ク整ヒ加之時恰モ羽二重ニ關スル力織機應用問題當業者間ニ起リ本場ハ創業以來各種力織機ヲ場内ニ据付ケ之ニ由テ羽二重製織ニ關スル諸種ノ試驗ヲ施行シツヽアリシカバ來縱覽スルモノヲ質疑スルモノ又工場設計ヲ托スルモノ等俄カニ增加シ本場又此期ヲ逸セズ接觸ニ勉メタリシカバ茲ニ両者密接ノ基礎ハ形成セラレタリ、仝年度内ニ於ケル質疑及鑑定ヲ乞ヒシモノ百五十八件縱覽者二千九百九十六人ヲ算セリ

明治四十年度ニ於テハ從來ノ本場業務規程ガ單ニ羽二重及ヒ絹織物ノ製作技術ニ關スルモノヽミナリシヲ以テ之ヲ擴張シ同品ノ外毛織物、綿織物、麻織物、及染色ノ試驗ヲモ兼ネ其他見本品ノ配付機械器具ノ檢定原料及ヒ製品ノ分折鑑定等ヲモ行フコトヽナシ一層當業者ノ便益ヲ計レリ

仝年度ニ於ケル質疑及鑑定ノ件數ハ百九十六件ニシテ縱覽人二千七百六十三人各所ニ見本ヲ配付セルモノ十九種ニ及ヘリ

明治四十一年度ニ於テハ質疑及鑑定ノ件數ハ百十件ニシテ縱覽者二千九百二十八人配付セル見本ノ品種ハ十五種ニ達セリ

明治四十二年度ニ於テハ本場職員並ニ當業者有志ヲ以テ福井織物研究會ナル團体ヲ組織シ本場ノ一室ヲ以テ之カ會場ニ充テ毎月一回茲ニ會合シ自他研究ノ便ヲ圖レリ　同會ハ廣キ意味ニ於テ會員ヲ機業家ノミニ止メズ染色業者、精練業者、商業者其他織物ニ關係アル木工、鐵工並ニ筬、杼等ノ製造業者等ヲモ網羅セリ

又同年度ニ於ケル質疑及鑑定件數ハ百三十三件縱覽者ハ四千六百四十四人ナリ

明治四十三年度ニ於テハ染色ニ堪能ナル模範職工ヲ採用シ染色業者ノ實地指導ニ勉メタリ從來本縣ノ染色業ハ頗ル幼稚ニシテ機業ノ發展ト伴ハズ近年染色ノ需要俄カニ增加セルニ拘ラズ就中最モ必要多キ糸染ノ色相ノ狀況ナリキ本場之ヲ概シ前記職工ヲ招致セルモノニシテ當業者ノ來リ學ブ者隨テ多ク其ノ改良ニ貢献スル所尠カラス

同年度ニ於テハ分折專任ノ技術者ヲ傭聘シ且ツ分折機械ヲ整ヘ爾後學術的ノ試驗業務ヲモ遂行シ當業者ヲ指

導セリ

又同年度ニ於テ本場ハ織物意匠保護規程ナルモノヲ草シ之ヲ本縣絹織物同業組合定欵中ニ加ヘ以テ新規織物考案者ヲ保護センコトヲ協議シタルニ幸ニ組合當局者ノ熱心ナル賛同ノ下ニ立所ニ成立シ爾來新規考案者ハ本規程ノ下ニ其權利ヲ確保セラル、ニ至レリ、蓋シ本縣内地織物ハ近時異常ノ發達ヲ來シ從テ種々ナル新規考案モ敢テ少シトセザルモ時ニ工業道德ヲ重セサル輩アリ他ノ苦心計畫ニ因リ漸クニシテ世ノ趣好ニ投シタルモノヲ見レハ忽チニシテ模造シ賣崩スモノ多々アルヲ慨シ之ヲ防壓セントシテ此ノ擧ニ出ツ本場技師ハ常ニ他ノ委員ト共ニ權利請求織物審査ノ任ニ當リ以テ其許否ヲ決セリ

又本場ハ職工慰安ニ關シテ考慮スル所アリ縣下當業者ノ主ナルモノト約シ何等カノ機會アル毎ニ慰安的ノ職工會合ヲ催シ其都本場員ハ之ニ望ミ娯樂ノ内ニ教訓ヲ與ヘ以テ彼等積日ノ勞ヲ慰スルト共ニ品性ノ向上ヲ計リ且ツ當業者ニ本場業務ノ成績ヲ周知セシムル爲メ務テ新聞ヲ利用シ或ハ試驗場たよりナル印刷物ヲ發刊シテ廣ク當業者ニ配付シ或ハ成績品ヲ携ヘテ出張講話スル等專ラ之ニ勉メタリ

同年度ニ於ケル質疑鑑定ノ件數ハ百三十一件縱覽者ハ四千九百十八人ナリ

明治四十四年度ニ於テハ本縣物産館開館ヲ機トシ第二回福井縣重要物産共進會開催ノ擧アリ事斯業發展ヲ促進シ又當業者ニ新規織物ノ範ヲ示スニ於テ絶好ノ機會ナレハ本場ハ當時最モ適切ナリト信シタル織物　即チ「タフタ」壁織、黑朱子襟地、朱子片縮、紗縮緬、朱子縮緬、撚羽二重、福井「ボブラン」紬裏地『シフォン』肩裏地染色仕上標本、傘地用增量黑染標本、染色仕上標本、黑繻子用經絲染標本、羽二重染色仕上標本、縞羽二重經糸染標本『タンタンビース』染色仕上標本等ヲ詳細ナル説明書ト共ニ出品セリ、本場技師技手ハ命ニ依リ或ハ出品係長トシテ或ハ審査官審査員トシテ終始努力シ其成巧ヲ助ケタリ

又同年度ニ於テ本場職員ハ機業家ノ戸別訪問ヲ開始シタリ從來本縣當業者ハ質疑アル毎ニ隨時本場ニ來テ之ヲ質シ或ハ各種ノ機業團体ニ於テ會合ノ際本場技術者ノ派遣ヲ乞ハバ直チニ之ヲ容レ或ハ文書ヲ以テ質問スレバ直チニ之ト應答スル等万遺憾ナキヲ期シ居レリト雖モ而カモ尙ホ本場所在地附近ノ當業者ト遠ク十數里ヲ隔ツル山間ノ僻地ニ住スル當業者トハ自ラ其利用ノ程度ニ於テ厚薄アルハ免ルヘカラサルヲ以テ本場ハ出來得ル限リ此ノ厚薄ノ差ノ輕減セシメント欲シ此ノ制施設セリ即チ全縣本ニ於ケル機業地ヲ其地勢ニ從テ十四區ニ區分シ本場技師技手ノ凡テハ多ク日曜等ノ休日ヲ利用シ區内機業家ノ戸別訪問ヲナシタリ而シテ彼等ノ質疑ニシテ即答シ得ル者ハ即答シ然ラサルモノハ歸場ノ上他ノ技術者ト合議若クハ實驗ヲ經タル上ニテ回答シ或ハ嶄新ナル見本ヲ携帶シア一般ニ示シ之カ説明ニ勉メ或ハ本場試驗事項ニ對スル彼等ノ希望ヲ求ムル等出來得ル限リノ手段ヲ盡シテ其便益ヲ圖ルニ勉メタリ

同年度ニ於ケル質疑鑑定分折等依賴ノ件數ハ百三十七件縱覽者ハ五千〇二十人ナリ

同年度ニ於テ本場長ハ本縣絹織物同業組合參與員ヲ囑託セラレタリ

大正元年度ニ於テハ本場ノ主張ニヨリ本縣絹織物同業組合ノ事業トシテ雜誌福井之織物發刊ノ擧アリ同誌編輯員ノ殆ト全部ハ本場職員ニシテ各自專問欄ヲ擔當シ讀者ヲ誘掖スルニ勉メタリ

又同シク組合事業トシテ起リタル精練改良研究部ハ本場技師他ノ技術委員ト共ニ常ニ改良研究ニ從事シタリ

同年度ニ於ケル質疑鑑定分折ニ關スル件數ハ三百九十二件ニシテ縱覽人ノ數ハ五千〇三十五人ナリ

大正二年度ニ於テハ富山縣共進會開催ヲ期トシ本縣絹織物同業組合主催ニテ福井織物品評會開設セラル、ヤ本場ハ卒先シテ各種參考織物ヲ出陳シ又會場ノ圖案裝飾出品ニ關スル庶務審査等主トシテ本場職員其ノ任ニ當リ之カ成効ヲ助ケタリ

同年度ニ於ケル質疑鑑定分折依賴件數ハ三百八十件ニシテ縱覽者ハ五千二百十九人ヲ算セリ

同年度ニ於テ本場長ハ本縣輸出羽二重檢査所顧問並ニ本縣物産館商議員ヲ囑託セラレタリ

大正三年度ニ於テハ縣下大野郡並ニ今立郡ニ重要物産共進會開催ノ擧アリ両者何レモ本場技師ハ審査等ノ事ニ從ヒ其成効ヲ期セリ

同年度ニ於ケル質疑鑑定分折等依賴件數ハ三百六十七件ニシテ縱覽者ノ數ハ四千八百二十三人ナリ

大正四年度ニ於テハ兼テ織物組合ヨリ依賴セラレタル精練改良研究試驗ハ畧ボ完成シ其研究ノ結果ヲ應用シ

テ精練セル羽二重ハ需要者ヨリ商品トシテ全ク欠点ナキ完全ナルモノナリトノ賞讃ヲ博シ本縣精練會社ニ於テモ該方法採用ニ決シ現ニ特別練ナル名稱ヲ以テ一般顧客ノ依頼ニ應シツヽアリ斯クシテ多年ノ懸案タル精練改良問題モ本場ノ助力ニ依リ漸ク一條ノ曙光ヲ見ルニ至レリ

又本場ガ卒先シテ奬勵指導シタリシ「フランス」縮緬綿「クレープ」織モ企業家續々顯ハレ製織ニ從事シ本縣ノ重要ナル物産トナルニ至レリ

同年度ニ於ケル質疑鑑定分析等ノ依頼件數ハ三百七十二件ニシテ縱覽人數ハ四百十四人ナリ

同年度ニ於テ本場長ハ本縣工業學校長ニ兼任セリ

大正五年度ニ於テハ以上各年度ニ亘ル記述セル各項ノ殆ト凡テヲ實施シ染織關係諸機關並ニ當業者トノ間ハ益々接近シ日トシテ數名乃至數十名ノ來場者ヲ見サルコトナク應接ニ暇アラザルノ狀況トハナレリ

(六)場員

就職年月	轉、免、休、退職年月	職名	姓名
明治三十五年七月	明治三十九年八月	場長	十時元
同	明治三十八年九月	技師	森田儀一郎
明治三十五年八月	明治三十七年九月	技手	圓城寺權一
同	同	書記	伊藤十藏
明治三十六年一月	大正七年四月	技手	綱島繁次郎
明治三十七年二月	大正七年二月(死亡)	場醫囑託	宇賀治丹造
明治三十七年九月	明治三十八年五月	書記	牧三治
同	明治三十九年九月	同	水戸登
明治三十七年十一月	明治三十八年五月	技手	齋藤貞治
明治三十八年十一月	明治三十八年十二月	監督囑託	佐田友雄
明治三十八年十二月	明治四十一年七月	技師	同
同	明治四十五年二月	技手	樋口盛樹
明治三十九年五月	明治四十四年五月	書記	熊井政二郎
明治三十九年七月	明治四十五年三月	同	大久保惇
明治三十九年八月	明治四十四年九月	場長	林精一
明治四十一年十月		技師	伊勢鉾三
明治四十四年四月	明治四十五年三月	書記(兼務)	高谷文治郎

就職年月	轉、免、休、退職年月	職名	姓名
明治四十四年十一月	大正元年九月	場長	中里新太郎
明治四十五年二月	大正二年十月	技手	吉田猶治郎
同	大正二年三月	精練試驗囑託	黑川誠三郎
明治四十五年三月	大正六年九月	書記	山田新藏
同	大正三年五月	同（兼務）	今村雄助
明治四十五年七月	大正元年十二月	技師（兼務）	下坂禾苗
同	大正四年三月	技手（兼務）	松尾寛次郎
同	大正五年三月	同（同）	西村久三郎
大正元年十一月	大正五年二月	同（同）	小林彈好
大正元年十二月	大正五年二月	場長	佐田友雄
大正二年一月	大正三年一月	技手（兼務）	小宅俊吾
大正二年四月	大正三年五月	意匠圖案囑託	三上禎一
大正三年一月	大正五年七月	技手（兼務）	川上逞治
大正三年三月	大正四年十一月	技手	西村作太郎
同	大正三年七月（死亡）	同	樋口盛樹
大正三年八月	大正五年二月	同（兼務）	森景樹
大正三年十月	大正七年三月	技師（同）	丸山善八
大正五年四月	大正六年十月	場長	岩下龍太郎
大正五年一月	大正六年十二月	技手	伊藤縫之助
同		同	中村金三郎
同		同	西村久三郎

就職年月	轉、免、休、退職年月	職名	姓名
大正六年四月	大正六年八月	書記	野村元
大正六年九月	大正六年十二月	同	井手麻次
同		同（兼務）	高島甚作
大正六年十二月		技手	五十嵐清
大正七年二月	大正七年四月	書記	北川鼎
大正七年三月		技手	金居久作
同		場醫囑託	宇賀治元造
大正七年四月		書記	廣田清松

職員

場長	技師	岩下龍太郎
技師		伊勢鉾三
技手		西村久三郎
仝		五十嵐清景
仝	(兼)	森金居久作
仝	書記	山田新藏
仝	(兼)	廣田清松
場醫	囑託	高島甚作
仝		宇賀治元造

職工及研究生其他

助手		二名	大洞秋喜一
小使		二名	奥斌
職工	男	五名	
同	女	一名	
研究生	男	五名	
同	女	二名	
夜警		一名	

(大正七年十二月現在)

(七)經費及收入

一、經費

年度/科目	常費					臨時費
	俸給	雜給	場費	修繕費	合計	建築費
	円	円	円	円	円	円
明治三十五年度	一、二七九、四八二	三〇九、七三〇	二、三九二、六九七	〇	三、九八一、九〇九	一六、七九八、九四〇
明治三十六年度	二、九〇四、〇〇〇	一、七三九、二〇五	三、八七三、八四四	一五七、七三五	八、六七四、七八四	一、四二三、三五〇
明治三十七年度	二、七四八、七〇八	三、三三七、〇六五	五、六九六、〇四一	一九一、四三〇	一一、九七三、二四四	一、八六七、五〇〇
明治三十八年度	二、七七二、五五〇	三、九三四、〇七一	四、九七六、一三四	九三七、三八八	一二、六二〇、二四三	二六、〇〇〇
明治三十九年度	三、〇一〇、四三〇	四、六四六、八六九	四、八三三、八五九	一〇二、八二〇	一二、五九三、九七八	〇
明治四十年度	二、九八〇、九一〇	四、七五九、六五〇	四、〇三九、一二七五	二二四、九八五	一三、〇〇二、八二〇	〇
明治四十一年度	二、八五〇、三六〇	三、七八六、六九〇	八、七六二、四八三	六六六八、四〇〇	一六、〇六七、九三三	〇
明治四十二年度	三、〇四七、八八〇	四、四四〇、八八〇	六、一六八、八四五	四三九、一四〇	一四、〇九六、七四五	〇
明治四十三年度	三、〇四七、八八〇	四、五二二、六九〇	四、九八四、九七〇	二五八、九一〇	一二、八一四、四五〇	〇
明治四十四年度	二、九四九、〇八四	四、八八〇、九六〇	八、〇二一、一七〇	一八九、九〇〇	一六、〇四一、一一四	四、四四四、〇〇〇
大正元年度	二、九四四、八四〇	五、四四九、〇九〇	六、一六三、二三〇	四一五、〇〇〇	一五、〇七二、一六〇	〇
大正二年度	三、一一九、六一〇	五、七〇五、八七〇	五、六二一、八一〇	四二〇、〇〇五	一四、八六七、一九〇	〇
大正三年度	三、五一三、八九〇	五、一四八、九四〇	五、一三二、八四〇	一八八、九八〇	一四、一八三、六五〇	一、二三、〇〇〇
大正四年度	二、三三三、六五〇	五、三三三、〇八〇	五、六六九、一六〇	二〇三、〇〇〇	一三、五一九、四九〇	五七五、〇〇〇
大正五年度	二、七四一、二三〇	五、二〇二、一九〇	四、三四五、六八〇	二五七、二五〇	一二、五四六、三五〇	〇
大正六年度	二、八二九、二五〇	五、三六五、七五〇	七、一七八、九九〇	四九一、九五〇	一五、八七五、九四〇	〇

二、國庫補助金

年度	補助金
明治三十九年度	一、三〇〇、〇〇〇円
明治四十年度	二、四〇〇、〇〇〇
明治四十一年度	三、〇〇〇、〇〇〇
明治四十二年度	二、五〇〇、〇〇〇
明治四十三年度	三、〇〇〇、〇〇〇
明治四十四年度	三、〇〇〇、〇〇〇
大正元年度	二、八〇〇、〇〇〇円
大正二年度	一、七〇〇、〇〇〇
大正三年度	一、二〇〇、〇〇〇
大正四年度	一、二〇〇、〇〇〇
大正五年度	一、〇〇〇、〇〇〇
大正六年度	—

三、縣歲入

年度	收入
明治三十六年度	六、三一五円
明治三十七年度	二五、六六一
明治三十八年度	一四、二〇〇
明治三十九年度	一〇、二六七
明治四十年度	一一、〇六〇
明治四十一年度	二、五〇〇
明治四十二年度	七、八〇〇
明治四十三年度	七、五〇五
明治四十四年度	一六、一八〇円
大正元年度	一〇、九一〇
大正二年度	一九、四七〇
大正三年度	一七、九八〇
大正四年度	一八、三三八
大正五年度	六八、五四〇
大正六年度	五九、五一〇

四、運轉資金歲出

年度	科目	原料購入費	雜給	雜費	合計
明治三十六年度		一、二六五、四五九円	〇円	〇円	一、二六五、四五九円
明治三十七年度		四、一五一、八三六	〇	〇	四、一五一、八三六
明治三十八年度		五、五四九、八八五	〇	〇	五、五四九、八八五
明治三十九年度		五、六五五、二二一	〇	〇	五、六五五、二二一
明治四十年度		二、一八九、九一〇	〇	〇	二、一八九、九一〇
明治四十一年度		一、七一三、一六六	〇	〇	一、七一三、一六六
明治四十二年度		二、二二二、一四〇	〇	〇	二、二二二、一四〇
明治四十三年度		二、二四五、三一五	〇	〇	二、二四五、三一五
明治四十四年度		二、四七七、〇八〇	〇	〇	二、四七七、〇八〇
大正元年度		一、四三七、六八〇	〇	〇	一、四三七、六八〇
大正二年度		二、四六二、一一〇	〇	〇	二、四六二、一一〇
大正三年度		一、七五八、八八〇	〇	〇	一、七五八、八八〇
大正四年度		三、七五八、六五〇	一二六、三六〇	五、六七〇	三、八八四、六二〇
大正五年度		四、〇二九、六三〇	五三九、〇八〇	三、五一〇	四、五六八、七二〇
大正六年度		五、三八八、四〇〇	二九一、八六〇	一三、一六〇	七、〇〇〇、〇〇〇
			七九〇、三四〇	九九五、七四〇	一、七七四、四八〇

年度／科目	製品賣却代	加工賃	雜收入	利子	前年度繰越金	合計
	円	円	円	円	円	円
明治三十六年度	九〇、五一〇	〇	〇	一三一、二六一	〇	二二一、七八一
明治三十七年度	三、四三九、〇四六	三八〇、二七二	三〇、二一九	六二、〇三〇	三、〇六〇、六九〇	六、九七二、二五七
明治三十八年度	五、六八四、九七五	五八〇、四四八	四五、二五二	六二、二五一	二、〇一七、〇一二	八、三一七、九三八
明治三十九年度	五、一二六、一六四	六三三、四九〇	四八、二二一	九九、〇二七	二、五二七、七八四	八、四二四、六八六
明治四十年度	七五三、六九六	五八六、八六三	一九、八六〇	九五、一二六	二、七六九、四八一	四、三三五、〇二六
明治四十一年度	三五〇、六四八	二●五、四九七	八、九七四	八四、一三八	二、〇二八、五八五	二、七〇七、八〇二
明治四十二年度	二、五九二、六二二	三二、九一一	四二、二一五	二八、二五四	九九四、六三七	三、六九〇、六三八
明治四十三年度	二、三四五、七一〇	八、三一六	九二、八八〇	二七、五〇〇	一、四七八、五〇八	三、九五三、九二四
明治四十四年度	一、四〇六、〇四五	一六一、九九九	二六、七八〇	二五、八一七	二、四〇九、五二九	四、〇三〇、一三〇
大正元年度	五七六、三三五	三三七、九五五	三、七〇〇	二六、八二三	一、五五五、二七〇	二、五〇〇、〇八二
大正二年度	一、七六四、二二〇	九〇七、八四〇	六、〇二五	三六、六七七	一、〇六一、四〇二	三、七三六、一六四
大正三年度	一、〇七二、七九〇	八六一、五一五	一一、五九五	五六、一三〇	一、三一四、〇五四	三、三一六、一八四
大正四年度	二、五五四、一三五	二、二八八、八七五	一、一一〇	六八、二五五	一、四一五、二七四	六、三三七、六五九
大正五年度	三、〇〇三、三八五	二、一九三、四八〇	一九、〇九〇	一〇七、〇六〇	二、〇三六、四一九	七、四五九、八〇四
大正六年度	四、三四一、七四〇	五、五五五、六二〇	三六、一二〇	一九一、四二〇	三、一三、七八四	一三、二四九、六八四

大正八年三月五日印刷
大正八年三月十日發行

福井縣工業試驗場

印刷者　福井縣福井市相生町拾六番地　薄金次助

印刷所　福井縣福井市相生町拾六番地　薄金活版印刷所

14.2
323

終